



ポルトガル・ブラジル学会

25年史

1965 - 1990

ポルトガル・ブラジル学会

25年史

1965-1990



東京 1990年

〒102 東京都千代田区紀尾井町 7 - 1
上智大学ポルトガル・ブラジルセンター内
ポルトガル・ブラジル学会
電話 03 (238) 3536

ポルトガル・ブラジル学会創設二十五周年

(一九六五年〜一九九〇年)を迎えて

ポルトガル・ブラジル学会会長

ヴェンデリーノ・ローシヤイタ

ポルトガル・ブラジル学会(AJELB)創設二十五周年の記念準備作業を進めるにあたり、私の心を強くとらえたのは、何にもまして、感謝の思いでした。

それは先ず、二十五年にわたって私がこの仕事を続けるための健康と強い精神力を与えて下さった神への感謝の念であり、またそれは、学会がその目的——日本におけるポルトガル語とポルトガル・ブラジル世界に関する研究の促進——の実現に向けて前進できるように、発足以来変わることなく常に好意ある批判的姿勢で支援と協力を惜しまなかった日本、ポルトガル、ブラジルをはじめとする国々の、私の研究仲間である諸先生方に対する感謝の念でもあります。

この感謝の念を、私は、学会設立当初から今日まで、それもとりわけその困難な時期に、学会の存続と発展のためにと精神的支援に加えて貴重なる財政的支援までして下さった在京ブラジル・ポルトガル両国の大使はじめ政府関係者の方々にもささげたく思います。

そして最後になります。学会の事務局が置かれている上智大学ポルトガル・ブラジルセンターの山村さんの、この間長きにわたっての学会への尽力に感謝の意を表します。

さて、私共の学会の活動目的に改めて思いを致した時、私の脳裏に浮かんだのはフェルナンド・ペソアの美しい詩句——『神は望まれた、全世界が一つであることを。海がもはや隔てず、繋がんことを。』——でした。目標に向かって積極的な努力を重ねる中で、私たちはこの言葉を自分たちのものにすることができるのではないのでしょうか。実際、多くの海が、地理的に、私たちの世界である日本とポルトガルとブラジルを隔てています。よって、私たちの使命は、それらの海が隔ての海ではなく繋ぎの海へと変わるように努めることでありましょう。

このことに思いを巡らし、そしてこのことのために力を尽くした人のひとりに、ブラジルの偉大なる政治家で外交官でもあるオズヴァルド・アラニーヤがいます。彼はこう述べています——『ブラジル文明は普遍的な文明であり、それは人種・土地・気候の融合体である』。私たちの世界を構成するこんなにも多様な土地と気候、そして多くの人種。彼らが平和と調和の中で共存し得るこの『普遍的文明』を前進かつ完成させるのは、他でもない、私たちなのです。

高名なる日本の政治家でまた作家でもある鶴見祐輔はそこへ辿り着く道を私たちの前に示します。彼はその著の中でこう記しています——『私見によれば、世界の恒久平和の基盤は他民族の文化の真の評価以外にはあり得ない』。正にここに私たちに課せられた任務があるのです。私たちに託された若人が、過去を学ぶことによって現在を知り未来に備えることができるように、彼らに広い展望を与えるという務めであります。

メ ッ セ ー ジ

駐日ポルトガル大使

ジョゼ・デ・メロ・ゴウヴェイア

ポルトガル・ブラジル学会創設二十五周年を心からお喜び申し上げます。

同学会(AJELB)は、二十五年の長きにわたり、倦まずたゆまず、ポルトガルの言語・文化の擁護と日本におけるその普及という、まさしくポルトガル大使館と共有するその目的実現のために、主導的役割を果たしてきました。

一九八八年の東京着任以来、私が注目してきましたことは、AJELBが、科学的厳密さに立脚した方法論を駆使してすみやかに確実なる成果を収め、ポルトガルの極めて豊かな過去の歴史——それは現在にも疑い得ぬ影響を及ぼすもの——の回想に確固たる貢献をしながら、ポルトガル語圏の諸文化の、日本におけるなお一層の普及に努めてきたことでもあります。

私は、更に二十五年後の、学会創設五十年を祝う光栄にはまず浴することは出来そうにありませんが、その代わり、敢えてここでひとつ大胆な予測を立てておきます。それは、今日先頭に立って学会を牽引している人たちの献身的努力がもしそれにふさわしい有能な後継者の出現を招来するものであれば、二十五年後のAJELBは、日本の学界にどっかりと根を下ろした、いつそう力強い活動的な学会として祝福されるであろう、というものです。

駐日ブラジル大使

カルロス・A・B・ブエノ

ポルトガル・ブラジル学会の創設二十五周年記念に当り、学会の役員・会員の皆様にお祝い申し上げることを大きな喜びとするものであります。

ポルトガル・ブラジル学会は、その活動の初期から、ブラジル文化の普及のみならず、日本とブラジルの学究家並びに知識人のアプローチの場として際立つた活躍を展開してきました。

学会の機関誌“ANNAIS”はポルトガル語とブラジル文化の多様な面に関する諸々の見解の発表や論議の重要な媒体であります。

今後も学会の活動が日伯両国の絆の一層の強化のため大なる貢献をなし続ける事と確信します。

この機会を利用して、ポルトガル・ブラジル学会の役員・会員の皆様にご挨拶を申し上げ、同会の益々のご発展とご成功を願って止みません。

ポルトガル・ブラジル学会二十五年略史

本学会の前身はポルトガル語教育者協会と言い、一九六五年に設立された。

一九六〇年代の初頭まで日本でポルトガル語学科を持つ大学は東京外国語大学だけであったが、一九六四年に上智大学にポルトガル語学科が設けられた。

一九六七年になると京都外国語大学にブラジル・ポルトガル語学科が設けられ、一九七九年には大阪外国語大学にポルトガル・ブラジル語学科が設けられた。

このほかに六〇年代にはすでに関東にも関西にもポルトガル語を第二あるいは第三外国語として教授する大学がいくつかあり、さらには在東京ブラジル大使館の援助を得て一九六三年には実際に活動していた金沢市のポルトガル語コースのような授業がいくつかあった。

ここで本学会の二十五年間の活動を中心にその「歴史」を概観することにする。

上智大学にポルトガル語学科が設立されると同大学のヴェンデリーノ・ローシャイタ教授は他大学のポルトガル語教育担当の先生がたとの恒常的なコンタクトが必要であると考えた。ブラジル大使館はこの考え方に賛同し、さらには経済的援助まで申し出てくれた。

一九六五年 一月十九日。ブラジル大使館公使のJ・B・ピニエイロ氏は、諸先生に書簡を送り「第六回ブラジル研究セミナー」と「第一回ポルトガル語教育者会議」のため出席を要請し、出張旅費、滞在費などの負担を申

し出てくれた。(例えば書簡の一例オリジナルは本誌の後方ポルトガル語の部二～三頁参照)

三月三十日。右述のセミナーと会議の実施運営を担当したローシャイタ教授は各大学等のポルトガル語教育担当責任者に書簡を送り準備会参加を呼びかける。

五月三日。上智大学における準備会に各大学よりそれぞれの教員が集まった。出席者七名。

ポルトガル・ブラジル学会はこの時非公式ながら誕生。すなわちこの席上で全員一致の上、ポルトガル語教育者協会の設立案を来たる七月の第一回ポルトガル語教育者会議に提出することとしたのである。

七月十七日～二十二日。第六回ブラジル研究セミナーを日光で開催。このセミナーを第六回と呼ぶのはそれ以前に東京外国語大学の学生を対象にした同趣旨のセミナーがすでに五回行なわれており、それを発展させたものだからである。第六回セミナーから、ポルトガル語およびブラジル関係の授業の行なわれているすべての大学に参加を呼びかけた。発会式に参加した人の中で特筆すべきはブラジル大使アルヴァロ・テイシェイラ氏とその夫人。

七月二十三～二十四日。第一回ポルトガル語教育者会議開催とポルトガル語教育者協会(A P P)発足。参加者十二名。なおこの会議の冒頭で、出席できなかったブラジル大使からの祝辞(オリジナルはポルトガル語の部七頁参照)の代読があった。

ここで特筆すべきはセミナーと会議のため在東京ブラジル大使館を介してブラジル政府が経済的負担をしてくれたことで、この好意がなければセミナーも会議も実現しなかったことであろう。

一九六六年 七月十六～二十二日。第七回ブラジル研究セミナー。日光において。

七月二十二～二十三日。第二回ポルトガル語教育者協会会議。日光において。ブラジル大使館後援。

役員選挙（敬称略、以下同様） 会長 V・ローシャイタ、幹事 マウリシオ・クレスポ、池上岑夫。この会議において次年度より研究発表会と機関誌発行が決定。

一九六七年 七月十四～十五日。第一回ポルトガル・ブラジル研究発表会。上智大学において。

在東京ブラジル大使館の後援と財政的援助を得た。この時の研究発表は機関誌『アナイス』（紀要）第一号に掲載。この機関誌は外国の大学等との交流・文献交換のための重要な刊行物となる。

第三回ポルトガル語教育者協会総会。上智大学において。

この時の会長による年間活動報告のなかで特筆すべきは協会編になる『ポルトガル語中級読本』（東京・大書林）の刊行の報告であった。（その他、出版物についてはポルトガル語の部四十五頁～六十二頁参照）

役員改選 会長 V・ローシャイタ、幹事 池上岑夫、リーノ・スタール。

七月十七～二十一日。第八回ブラジル研究セミナー。日光において。

ブラジル大使館の後援と財政援助を得た。この時初めてポルトガル政府公認講師ペドロ・カナヴァーロ氏が参加。

一九六八年 七月十七～二十二日。第九回ブラジル研究セミナー。日光において。

この年もブラジル大使館の後援と財政的援助を得た。

八月三十一日～九月一日。第二回研究発表会と第四回総会。上智大学において。

ブラジル大使館の後援と財政援助を得た。

総会において役員改選 会長 V・ローシャイタ、幹事 L・スタール、松尾多希子。

この時、関西において研究発表会と総会を開催する案が検討された。

一九六九年 八月三十〜三十一日。第三回研究発表会と第五回総会、大学セミナーハウス（八王子）において。主として大学紛争のため出席不能となった会員が数人いた。

『アナイス』二号（一九六八）。印刷部数七〇〇部、そのうち四〇〇部を諸外国へ発送。アメリカ一八一部、ブラジル九四部、ポルトガル二七部。

役員改選 会長 V・ローシャイタ、幹事 ジャイメ・コエリョ、高橋哲太郎。

大学紛争のためブラジル研究セミナーは中止。なおこの年ブラジルの財政援助は受けられなかったが、ポルトガルから協会の活動のための援助を得た。

一九七〇年 八月二十九〜三十日。第四回研究発表会と第六回総会。天理大学において。

『アナイス』三号（一九六九）七〇〇部印刷、三三六部発送。

役員改選 会長 V・ローシャイタ、幹事 竹村英郎、J・コエリョ。

主として本会の財政的理由から『アナイス』四号（一九七〇）の発行断念。

一九七一年 十二月十九〜二十日。第五回研究発表会と第七回総会。私学会館（東京）において。

役員改選 会長 V・ローシャイタ、幹事 J・コエリョ、竹村英郎。

一九七二年 十二月二十二〜二十三日。第六回研究発表会と第八回総会。私学会館において。

役員改選 会長 V・ローシャイタ、幹事 J・コエリョ、河村昌造。

この時ポルトガル語教育者協会（APP）をポルトガル・ブラジル学会（AJELB）に改称。それに伴い規約中の名称を変更。

中断していた『アナイス』の刊行を復活し、一九七〇、七二、七三年の合冊号として、『アナイス』四〜

六号を刊行することを決定。ポルトガル、ブラジルのそれぞれ大使を本会の名誉会員に推挙。

一九七三年 十二月二十一～二十二日。第七回研究発表会と学会総会（第九回）。私学会館において。

役員改選 会長 V・ローシャイタ、幹事 水野一、J・コエリョ。

ブラジル、ポルトガル両大使『アナイス』七号（一九七三）の刊行のため財政援助実現へ努力を快諾。

一九七四年 九月二十～二十一日。第八回研究発表会と第十回総会。私学会館において。

役員改選 会長 V・ローシャイタ、幹事 J・コエリョ、大野隆雄。

一九七五年 十二月十九～二十日。第九回研究発表会と第十一回総会。上智大学において。

役員改選 会長 V・ローシャイタ、幹事 J・コエリョ、小嶋厚子。

非会員の『アナイス』への投稿承認。ただし審査委員の承認と一五、〇〇〇円または五十ドルの納入が条件。

一九七六年 十二月十八～十九日。第十回研究発表会と第十二回総会。南山大学において。

ワシントンのブラジル・アメリカ・カルチュラル・インスティテュートのハイデ・シモンイス・マグロー女史の特別講演。なお同女史の来日は在東京ブラジル大使館を介して、ブラジル外務省の援助によるもの。

役員改選 会長 V・ローシャイタ、幹事 川崎桃太、高橋都彦。

規約第七条の年会費を一、〇〇〇円から二、〇〇〇円に変更。

一九七七年 十二月三～四日。第十一回研究発表会と第十三回総会。京都外国語大学において。

役員改選 会長 V・ローシャイタ、幹事 川崎桃太、池上岑夫。

ブラジル移住七十周年を記念して、次回の研究発表会でも関連テーマの発表を行うことの提案があった。

一九七八年 十月二十一～二十二日。第十二回研究発表会と第十四回総会。東京外国語大学において。

研究発表のなかにブラジル移住七十周年に関するテーマでの発表があった。

役員改選 会長 V・ローシャイタ、幹事 川崎桃太、金七紀男。

『アナイス』の定価の決定。国内、会員は一、〇〇〇円と郵送料、非会員一、二〇〇円と郵送料。国外、八米ドル（郵送料を含む）。

一九七九年 十月二十〇～二十一日。第十三回研究発表会と第十五回総会。上智大学において。

特別招待者としてサンパウロ大学のエゴン・シャーデン教授、ブラジル大使ロナルド・コスタ氏代理ジョゼ・フェレイラ・ロベス参事官の両氏出席。

役員改選 会長 V・ローシャイタ、幹事 川崎桃太（関西担当）、高橋都彦（関東担当）。

一九八〇年 十月二十五～二十六日。第十四回研究発表会と第十六回総会。京都外国語大学において。

役員改選 会長 V・ローシャイタ、幹事 池上岑夫（関東）、川崎桃太（関西）。

年会費を二、〇〇〇円から三、〇〇〇円に変更決定。

大学院生は正会員となる資格はあるも、個々に審査することを決定。『アナイス』の論文をポルトガル語以外の言語で発表する案は技術的に時期尚早として否決。

一九八一年 十月二十四～二十五日。第十五回研究発表会と第十七回総会。拓殖大学（八王子）において。

フルミネンセ連邦立大学のマルレーネ・C・ゴメス・メンデス女史参加。

役員改選 会長 V・ローシャイタ、幹事 池上岑夫（関東）、川崎桃太（関西）。

規約改正。一、在外会員（準会員）制の決定。年会費二十米ドル、『アナイス』受領資格と投稿資格はあるが、投票権はないこととする。二、役員任期を二年とする。

一九八二年 十月二十三日。第十八回研究発表会と第十八回総会。大阪外国語大学において。

規約第七条改正の承認。準会員の年会費二十ドルを追加。

会員名簿作製承認。

『アナイス』は、会員はそれぞれ一部を、論文掲載者はさらに五部を得ることを再確認。

一九八三年 十月二十二～二十三日。第十七回研究発表会と第十九回総会。東京外国語大学において。

会員名簿配布。

役員改選 会長 V・ローシャイタ、幹事 池上岑夫（関東）、川崎桃太（関西）。

準会員の年会費を二十ドルから二十五ドルに変更（銀行で円に換金する取立手数料がきわめて高いため）。

また『アナイス』の定価を八ドルから十五ドルに変更。

一九八四年 十月二十～二十一日。第十八回研究発表会と第二十回総会。上智大学において。

準会員の年会費を二十八ドルに。『アナイス』の定価を十八ドルに変更。

一九八五年 十月十九～二十日。第十九回研究発表会と第二十一回総会。国際文化会館（第一日）上智大学（第二

日）において。

フェルナンド・ペソア没後六十周年を記念して、イタリア、ピサ大学教授マリア・ジョゼ・デ・ランカスト
レ博士の特別講演。同博士の来日はポルトガルのグルベンキアン財団の後援による。

役員改選 会長 V・ローシャイタ、幹事 池上岑夫（関東）、川崎桃太（関西）。

一九八六年 十月十八～十九日。第二十回研究発表会と第二十二回総会。京都外国語大学において。

一九八七年 十月十七～十八日。第二十一回研究発表会と第二十三回総会。大阪外国語大学において。

役員改選 会長 V・ローシャイタ、幹事 池上岑夫（関東）、河野彰（関西）。

一九八八年 十月十五〜十六日。第二十二回研究発表会と第二十四回総会。拓殖大学において。

研究発表会の席上ポルトガル・カトリック大学のアントニオ・フレイレ教授挨拶あり。またブラジルのジュイス・デ・フォーラ連邦立大学の三女史の紹介があった。

一九八九年 十月二十一〜二十二日。第二十三回研究発表会と第二十五回総会。国際文化会館（第一日）上智大学（第二日）において。

パラナ連邦立大学のバジリオ・アゴステイニ教授の特別講演。

役員改選 会長 V・ローシャイタ、幹事 池上岑夫（関東）、河野彰（関西）。

次回一九九〇年度から『アナイス』の論文はポルトガル語、日本語のいずれでも可と決定。

以上がポルトガル・ブラジル学会二十五年の略史である。会員諸氏にかかわる事項等、そしてとくに日本、ポルトガル、ブラジルの方々の物心両面にわたるありがたいご援助の数々をすべてここに記すことができず、また思いもかけない遺漏もあらうかと思いますが、皆様のご寛恕をお願いします。

（V・ローシャイタ）

学会が受けた財政援助について

先に略史の中にも明記しましたように、ブラジル政府は、学会発足以来、在日ブラジル大使館を通じて、ポルトガル語教育者協会と、その後身のポルトガル・ブラジル学会の活動に対し、財政的支援を行いました。

一九六五年に始まった援助は、当初、ブラジル研究セミナーやポルトガル語教員会議の開催のために充てられましたが、一九六七年以降は、ポルトガル・ブラジル学会の研究発表会やその学会誌『アナイス』発行のための資金に向けられました。

一方、一九六九年から開始されたポルトガル政府の学会への寄付は、これもその大部分は在日大使館を通してのもですが、主として、『アナイス』刊行のための補助金として活用されました。

その金額は次の通りです。

| | | |
|-------------|-------------|------------|
| ブラジル政府(期間) | 一九六五〜一九七八年) | 四、三五八、四五七円 |
| ポルトガル政府(期間) | 一九六九〜一九八六年) | 一、四五八、〇〇〇円 |
| 計 | | 五、八一六、四五七円 |

以上の他に、ブラジルの歴代大使、公使、神戸のブラジル総領事、そして学会の名誉会員の方々からも寄付をいただいたことがあります。

こうした学会の活動への貴重なご支援に対し、ここに重ねて、感謝の意を表します。

ポルトガル・ブラジル学会規約

第一条 名称および学会本部

一、本会則に基づき“Associação Japonesa de Estudos Luso-Brasileiros (AJELB)”と称する学術団体を設立する。なお、日本語での名称は『ポルトガル・ブラジル学会』とする。

二、本会の事務局は上智大学ポルトガル・ブラジルセンター内に置く。

第二条 目的

本会の主要目的は会員相互の協力のもとに、日本におけるポルトガル語およびポルトガル語圏に係する諸分野の研究を促進するものである。

第三条 会員

一、本会の正会員は日本在住のポルトガル語圏およびポルトガル・ブラジル文化の教員または研究者とする。

二、日本在住ではないポルトガル語およびポルトガル・ブラジル文化の教員または研究者は準会員とする。

三、正会員および準会員としての入会は正会員または準会員一名の推薦により、執行部で承認されることを要す。

四、執行部の提案および会員の過半数の賛成を得て、特別の功績があり、また本会の目的達成に協力の

意を熱心に示す者を名誉会員とすることができる。

五、すべての正会員、準会員、名誉会員は本会の会合に出席する権利、論文を発表する権利および本会の刊行物および連絡文書を受領する権利を有する。

第四条 執行部およびその権限

一、本会の執行部は会長一名、幹事二名により構成される。ただし本会が、その会員総会において必要と認めた会員を執行部に加えることができる。

二、執行部のすべての構成員の任期は二年とする。ただし再選は妨げない。

三、執行部構成員の権限は以下の通りとする。

(イ) 会長

(一) 本会を代表する。

(二) 執行部の補佐により、会員総会での決定事項を逐行する。

(三) 通常および臨時総会を召集する。

(四) 執行部構成員と協議の上、本会に関連する通常の問題を解決する。

(ロ) 他の執行部構成員

前記第二項、第三項および第四項に定める事柄について、会長を補佐し、また会長と協議する。

第五条 総会および評決

一、総会は以下の二種類とする。

(イ) 通常総会

新執行部選出および本会の通常の問題を協議することを目的とし、一年に一度開催する。総会
成立には、委任状を含めて全会員の半数の出席を必要とする。

(ロ) 臨時総会

その協議に全会員の出席を要するような重要な案件を協議する目的で開催する。本総会の召集
は会長が決定する。

二、会員総会において、案件は通常、会員相互の自由かつ直接の協議により決定するものとする。

三、評決に際しては、とりわけ常に評決を必要とする執行部の選出においては、委任状を含めた出席者
の過半数により決定するものとする。

四、正会員は選挙権および被選挙権を有する。

第六条 活 動

本会はその設立目的に則り、以下の活動を行うものとする。

(イ) 日本におけるポルトガル語およびポルトガル・ブラジル文化の普及を計り、またその教育の質
的向上を図る。

(ロ) ポルトガル語およびポルトガル語圏に関する問題についての学術的会合を開く。

(ハ) 外国諸団体との文化交流を図る。

(ニ) 会員の研究成果の刊行に努める。

第七条 会 費

本会正会員は年会費として金三、〇〇〇円を納めるものとする。また準会員は二十八米ドルを納

めるものとし、名誉会員の会費納入は自由とする。会費を納入しない正会員および準会員はその権利を失うこともある。

第八条 規約の施行と改正

本規約はこれが承認された日より施行されるものとし、また本規約は会員総会に出席の会員過半数の評決により改正されるものとする。

単 項 本会が解散される場合には、本会資産の処分方法は総会出席会員の過半数の評決により決定されるものとする。

本規約は一九六五年九月二十五日の総会において承認され、最後の改正は一九八四年十月二十一日の第二十回総会において承認された。



Encontro de Professores, 1967,
Nikko.

ホルトル語教育者協会総会参加者
(1967年日光)

Colóquio de 1970, Univ. de Tenri.

1970年の総会参加者
(天理大学)



Colóquio de 1975, Univ. Sofia, Tóquio.

1975年の研究発表会
(上智大学)



Colóquio de 1980, Univ. de Est.
Estrangeiros de Quioto.

1980年の研究発表会
(京都外国語大学)



Visita da Profa. Mercedes Marchant Wolff, de Porto Alegre, Brasil, set. 1976, Tóquio.

1976年9月ポルトアレグレからメルセデス・マルシャン・ウォルフ女史来訪



A escritora Sra. Dinah Silveira de Queiroz, do Rio, em visita à AJELB, maio 1977, Tóquio.

1977年5月リオから作家
ディナー・シルヴェイラ・デ・ケイロス女史来訪



Colóquio de 1988, Univ. Takushoku, Tóquio.

1988年の
研究発表会
(東京 拓殖大学)





Profa. Haydée Simões Magro, no X.
Colóquio, dez. 1976, Univ. Nanzan,
Nagoya

第10回研究発表会に招かれた
ハイデ・シモンイス・マグロ女史
(1976年12月名古屋南山大学)

フェルナンド・ペソーア
没後50年記念講演会

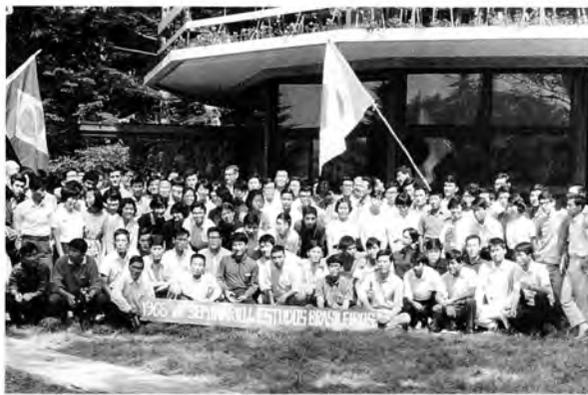


Profa. Dra. Maria José de Lancaster,
proferindo conferência sobre Fernando
Pessoa, Colóquio de 1985, Toquio.

フェルナンド・ペソーアについて講演をされる
マリア・ジョゼ・デ・ランカストレ博士
(1985年東京)

Sua Excia. Dr. Álvaro Teixeira Soares,
Embaixador do Brasil, inaugurando o
Seminário de Est. Bras., Nikko, 1965.

ブラジル研究セミナーの開会を宣言されるブラジル大使
アルヴァロ・テイシェイラ・ソアレス閣下
(1965年日光)



Participantes do Seminário,
Nikko, 1966.

日光セミナー参加者一同
(1966年)



Encontro de Professores da APP,
Nikko, 1966.

ポルトガル語教育者会議参加者
(1966年日光)



Dr. Faust Cardona, Cônsul do Brasil
em Kobe, proferindo conferência no
Seminário, Nikko, 1967.

セミナーで講演中のファウスト・カルドナ
在神戸ブラジル領事
(1967年日光)



25 Anos

da

Associação Japonesa

de

Estudos Luso-Brasileiros

1965 – 1990

AJELB



25 Anos

da

Associação Japonesa

de

Estudos Luso-Brasileiros

1965 – 1990

AJELB



Tóquio, 1990

Endereço:

*Associação Japonesa
de Estudos Luso-Brasileiros
a/c Centro Luso-Brasileiro
Sophia University
7-1 Kioicho, Chiyoda-ku
Tokyo, JAPAN 102*

Fone: 03(238)3536

Í N D I C E

| | |
|---|--|
| Saudação do Presidente da AJELB | |
| Vendelino Lorscheiter | |
| Mensagem do Exmo.Sr. Embaixador de Portugal | |
| Dr. José de Mello Gouveia | |
| Mensagem do Exmo.Sr. Embaixador do Brasil | |
| Dr. Carlos A.B. Bueno | |

* * * * *

| | (pág.) |
|---------------------------------|--------|
| Os 25 Anos da AJELB | 1 |
| Ajuda Financeira recebida | 35 |
| Estatutos | 36 |
| Lista Completa dos Membros | 40 |
| Publicações | 45 |
| Índice de ANAIS | |
| No. I (1967) - No. XXIII (1989) | 47 |
| Fotos | |

- - - - -

(Parte japonesa)

Jubileu de Prata
da
Associação Japonesa de Estudos Luso-Brasileiros
1965 - 1990

Ao preparar a celebração do Jubileu de Prata da Associação Japonesa de Estudos Luso-Brasileiros (AJELB), os sentimentos que mais predominavam em meu coração foram os de gratidão e reconhecimento. Gratidão, em primeiro lugar, a Deus, por ter-me dado saúde e força para começar e continuar este trabalho durante estes 25 anos. Reconhecimento aos meus colegas professores, japoneses, portugueses, brasileiros e de outras nacionalidades, que desde o início até o presente deram o seu apoio e a sua colaboração, numa atitude crítica mas sempre positiva, para que a Associação pudesse continuar a sua caminhada e cumprir a sua finalidade de "fomentar no Japão os estudos da língua portuguesa e demais estudos relacionados com o mundo luso-brasileiro".

Gratidão e reconhecimento também aos Senhores Embaixadores e Representantes do governo do Brasil e de Portugal, em Tóquio, que desde a fundação e depois ao longo do correr dos anos, em especial em épocas mais difíceis, deram não só seu apoio moral, mas também uma valiosa ajuda financeira para que a Associação pudesse continuar e progredir nos seus objetivos.

Finalmente, quero expressar aqui uma palavra de especial agradecimento à Secretária do Centro Luso-Brasileiro da Universidade Sofia, onde funciona a Sede da Associação, pelo seu dedicado serviço à AJELB durante todos estes anos.

Refletindo sobre os objetivos da nossa Associação, veio-me à mente uma bela frase de Fernando Pessoa que poderíamos fazer nossa no empenho de os realizar: "Deus quis que a terra fosse toda uma,
Que o mar unisse, já não separasse."

Na verdade, muitos mares separam geograficamente o nosso mundo nipo-luso-brasileiro; por isso, a nossa tarefa será fazer com que esses mares se transformem em laços de união e não de separação.

Nisto pensaram e para isto trabalharam homens como o grande político e diplomata brasileiro Osvaldo Aranha que assim se exprimiu: "A civilização brasileira é cósmica, uma fusão de raças, terras e climas". A nós compete levar adiante e aperfeiçoar esta 'civilização cósmica', onde possam conviver em paz e harmonia tantas raças, de tão diferentes terras e tão diversos climas que compõem o nosso mundo.

Para conseguir isto, o conhecido político e escritor japonês Yusuke Tsurumi nos mostra o caminho. Escreve ele: "A base fundamental da paz permanente no mundo só se encontra, na minha opinião, na real apreciação da cultura de outras raças".

Eis aqui a tarefa que nos aguarda: abrir os horizontes da juventude a nós confiada, para que estudando o passado, possam conhecer o presente e preparar-se para o futuro.

Vendelino Lorscheiter
Presidente da AJELB

S.



R.

EMBAIXADA DE PORTUGAL,
TOKYO.

M E N S A G E M

É com o maior prazer que saúdo o vigésimo-quinto aniversário da Associação Japonesa de Estudos Luso-Brasileiros, cujas iniciativas ao longo deste período de vida têm promovido de forma diligente e incansável um objectivo que a Embaixada de Portugal claramente também compartilha: a defesa da língua e da cultura portuguesas e da sua divulgação no Japão.

Desde que cheguei a Tóquio, em 1988, pude aperceber-me do esforço desenvolvido pela AJELB para tornar mais conhecidas as culturas de raiz lusiada entre os japoneses, utilizando métodos cujo rigor científico de imediato assegurou resultados positivos e contribuindo efectivamente para recordar um passado histórico riquíssimo e com consequências inegáveis no presente.

Não terei decerto a felicidade de poder celebrar o 50º Aniversário da AJELB, mas não tenho receio de arriscar uma previsão: se a abnegação dos homens que hoje estão à frente encontrar sucessores à altura, poder-se-á festejar daqui a 25 anos uma Associação ainda mais forte e empenhada, com sólidas raízes no mundo académico nipónico.

Tóquio, 9 de Março de 1990

A handwritten signature in black ink, reading "José de Mello Gouveia".

Dr. José de Mello Gouveia
Embaixador de Portugal



EMBASSY OF BRAZIL

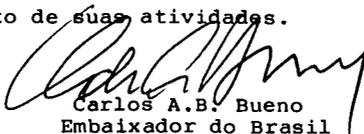
11-12, Kita-Aoyama 2-chome,
Minato-ku, Tokyo 107

M E N S A G E M

E com especial satisfação que me congratulo com os dirigentes e membros da Associação Japonesa de Estudos Luso-Brasileiros, por ocasião das comemorações de seu 25º aniversário de fundação.

A Associação Japonesa de Estudos Luso-Brasileiros, desde o início de suas atividades, tem realizado um notável trabalho não só em prol da divulgação da cultura brasileira, mas também em favor da aproximação entre estudiosos e intelectuais brasileiros e japoneses. Os "ANAIS", publicados pela Associação, constituem-se em importante veículo para a apresentação e debate de pontos de vista relativos a variados aspectos da língua portuguesa e da cultura brasileira. Estou convicto de que as atividades da Associação continuarão a contribuir de modo significativo para os estreitamentos dos laços que unem o Brasil e o Japão.

Desejo, nesta oportunidade, cumprimentar os dirigentes e membros da Associação Japonesa de Estudos Luso-Brasileiros, formulando-lhes os meus melhores votos de permanente sucesso no desenvolvimento de suas atividades.



Carlos A.B. Bueno
Embaixador do Brasil

OS 25 ANOS DA
ASSOCIAÇÃO JAPONESA DE ESTUDOS LUSO-BRASILEIROS
(AJELB)

A Associação Japonesa de Estudos Luso-Brasileiros (AJELB), no início denominada Associação de Professores de Português (APP), foi fundada em 1965.

Até os inícios dos anos de 1960, havia no Japão apenas uma Universidade com Departamento de Língua Portuguesa, a Universidade de Estudos Estrangeiros de Tóquio. Em 1964, foi fundado o Departamento de Português e Estudos Luso-Brasileiros na Universidade Sofia, em Tóquio.

Mais tarde, em 1967, foi fundado o Departamento de Português na Universidade de Estudos Estrangeiros de Quioto, e em 1979 o Departamento de Português na Universidade de Estudos Estrangeiros de Osaka.

Além disso, já havia nos anos 60, tanto na região de Kanto como na região de Kansai, várias universidades com Cursos de Português, como 2.^a ou 3.^a língua estrangeira. Também existiam Cursos de Português organizados por associações e grupos particulares interessados, como, por exemplo, o Curso de Português em Kanazawa que já funcionava em 1963, sob o patrocínio da Embaixada do Brasil em Tóquio.

Para facilitar uma visão de conjunto dos 25 anos de existência da Associação Japonesa de Estudos Luso-Brasileiros, vamos apresentar aqui, em ordem cronológica, os inícios, o desenvolvimento, as atividades principais, bem como outros fatos relevantes da história da Associação.

Logo após a fundação do Departamento de Português da Universidade Sofia, o Prof. Pe. Vendelino Lorscheiter, S.J., sentiu a oportunidade e mesmo a necessidade de manter contato com professores de Departamentos e Cursos de Português de outras Universidades e regiões. A idéia encontrou eco na Embaixada do Brasil que, inclusive, se prontificou a patrocinar e dar ajuda financeira a qualquer iniciativa neste sentido. É o que consta de uma carta da Embaixada e que pode ser considerada como o ponto de partida da AJELB, como a seguir veremos.

1965-19 de janeiro: Carta do Exmo. Sr. J.B.Pinheiro, Ministro-Conselheiro, Encarregado de Negócios do Brasil, na qual convidava vários professores a participar no "VIº Seminário de Estudos Brasileiros" e "Iº Encontro de Professores de Português", a realizar-se em julho do mesmo ano. Segue aqui a carta do Sr. Ministro-Conselheiro dirigida à Profa. Atsuko Kojima, brasileira, como exemplo das cartas de convite dirigidas também a outros professores convidados a participar no Seminário e no Encontro.

EMBAIXADA DO BRASIL

Tóquio, em 19 de janeiro de 1965

D-5

Prezada Professora Kojima,

Tenho o prazer de informar Vossa Senhoria de que estamos tomando as providências preliminares para que se realize entre 18 e 22 de julho próximo vindouro, o VI Seminário de Estudos Brasileiros, o qual terá lugar na Summer House mantida pela Universidade de Sophia no lago Chuzenji nas cercanias de Nico.

2. O Seminário será imediatamente seguido, no mesmo local, entre 23 e 24 do mesmo mês, pelo I Encontro de Professores de Português no Japão, a fim de que se examinem os problemas e métodos relativos ao ensino da língua.

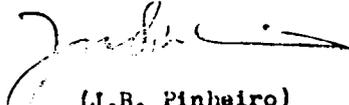
3. Se bem que o orçamento para o Seminário e o Encontro não esteja assentado em definitivo, pois depende a matéria da ulterior aprovação do Itamaraty, devo no entanto adiantar que os recursos serão sempre modestos. Essa é a razão porque não me posso permitir, como desejaria, o privilégio de fazer-lhe um convite em condições mais atraentes. Deante dessas limitações, a Embaixada poderia oferecer-lhe as passagens, por trem, entre Cobe e Nico, a estada na Summer House e uma gratificação simbólica de 15.000 yens.

4. Muito agradeceria a bondade de me informar, com a possível urgência, se Vossa Senhoria poderia nos dar a satisfação de participar do Seminário e do Encontro, os quais não estarão completos sem a sua presença.

5. O Padre Vendelino Lorscheiter, Diretor do Centro de Estudos Brasileiros da Universidade de Sophia, a quem estão afetas a direção e a organização do Seminário e do Encontro, entrara em contacto directo com Vossa Senhoria, tão pronto a Embaixada receber a resposta definitiva do Ministério das Relações Exteriores do Brasil, a fim de fornecer-lhe pormenores sobre o assunto em apreço.

Aproveito a oportunidade para apresentar os protestos da estima e consideração com que me subscrevo,

de Vossa Senhoria,



(J.B. Pinheiro)
Ministro-Conselheiro
Encarregado de Negocios do Brasil

- 30 de março: Carta do Prof. Pe. V. Lorscheiter, encarregado de organizar o Seminário e o Encontro de Professores de Português, convidando para um encontro prévio de professores responsáveis de cada Universidade ou região, para combinar vários assuntos, como; propaganda, seleção de estudantes, programa, etc. Foi sugerido o dia 3 de maio para a reunião.

- 3 de maio: Encontro Prévio de Professores de Português. Às 10:00 h. da manhã reuniram-se, na Universidade Sofia, os seguintes professores: Prof. Keiichi Kunisawa (Univ. Est. Estr. de Osaka), Profa. Atsuko Kojima (Osaka), Prof. Maurício Crespo (Univ. Takushoku, Tóquio), Prof. Nelson Yoshikae (Univ. de Educação, Tóquio), Prof. Yasuhiko Sano (Univ. Est. Estr. de Tóquio), Prof. Mineo Ikegami (Univ. Est. Estr. de Tóquio), Prof. V. Lorscheiter (Univ. Sofia, Tóquio).

Pode-se dizer que foi aqui, neste Encontro e neste local, que nasceu a AJELB, embora ainda não formalmente. Pois, além de programar o Seminário de Estudos Brasileiros e o Encontro de Professores de Português, todos os presentes aprovaram a idéia de fundar uma Associação de Professores de Português. Ficou também decidido que este assunto seria proposto no I. Encontro de Professores de Português a realizar-se em julho do mesmo ano, para aprovação formal.

- 17 a 22 de julho: VI.^o Seminário de Estudos Brasileiros.

Local: Nikko Katsuragikan, da Univ. Sofia
 Número de participantes: 104 estudantes de 10 universidades, sob a direção de 10 professores (japoneses e brasileiros).

Este Seminário foi chamado de VI, porque é um desenvolvimento de semelhantes Seminários de anos anteriores, mas limitados a pequeno número de estudantes de uma só universidade - a Univ. de Estudos Estrangeiros de Tóquio.

A partir deste VIº Seminário, todas as Universidades com cursos de língua e/ou assuntos brasileiros estavam convidadas a participar.

Para a inauguração compareceram o Senhor Embaixador do Brasil, Dr. Álvaro Teixeira Soares e a Senhora Embaixatriz, o 1.º Secretário da Embaixada, Dr. Marcos Romero, o pintor brasileiro Wesley Duke Lee, premiado com o Prêmio Especial da 8ª Bienal de Tóquio.

O Programa do Seminário constava de três partes: De manhã: Estudo prático da língua portuguesa, sendo os alunos divididos em grupos de nível mais ou menos igual. De tarde: Conferências com debates. De noite: Projeções, música, teatro.

No encerramento houve concurso de cantos brasileiros entre os diversos grupos, com prêmios para os melhores colocados. Houve ainda apresentação de danças folclóricas japonesas e brasileiras. O Instituto Brasileiro do Café (IBC) ofereceu café para os dias do Seminário, o que foi muito apreciado por todos. A língua oficial durante o Seminário foi o português.

Algumas opiniões dos estudantes: Todos gostaram do Seminário e dos diversos programas. Alguns acharam os textos para o estudo da língua algo difíceis. Quanto às conferências, muitos desejaram que os assuntos tratados fossem mais gerais, e não demasiadamente especializadas.

Impressão dos professores: A impressão geral foi ótima. O que mais impressionou foi a seriedade dos participantes. Um problema a ser considerado: a diferença de nível dos estudantes.

- 23 e 24 de julho: I.º Encontro de Professores de Português & Fundação da Associação de Professores de Português (APP)

Logo após o Seminário realizou-se o I.º Encontro de Professores de Português, no mesmo local.

Estavam presentes os seguintes professores:

- Da Univ. Sofia: Profs. Arcádio Schwade, José Furusato, V. Lorscheiter
- Da Univ. Est. Estr. de Tóquio: Profs. Yasuhiko Sano, Mineo Ikegami
- Da Univ. Est. Estr. de Osaka: Prof. Keiichi Kunisawa, Profa. Atsuko Kojima
- Da Univ. Nanzan: Prof. Pe. Georg Gemeinder
- Da Univ. Takushoku: Prof. Maurício Crespo
- Da Univ. de Educação: Prof. Néelson Yoshikae
- Da Embaixada do Brasil: Prof. Tetsuji Kikkawa
- Do Curso de Português de Kanazawa: Profa. Harue Tati.

Além desses 12 professores, participaram também dois bolsistas brasileiros que tinham colaborado no Seminário: Pe. Lino Vombommel e Srta. Masae Fujihira.

Na abertura do Encontro, o Prof. Lorscheiter leu a Mensagem do Sr. Embaixador do Brasil, Dr. Álvaro Teixeira Soares, impossibilitado de estar presente pessoalmente.

Como se trata de um documento histórico da AJELB, reproduzimos aqui a Mensagem na íntegra :



EMBAIXADA DOS ESTADOS UNIDOS DO BRASIL

MENSAGEM AO I ENCONTRO DE PROFESSORES DE PORTUGUÊS NO JAPÃO

Por ocasião da cerimônia de inauguração do VI Seminário de Estudos Brasileiros e do I Encontro de Professores de Português, tive o prazer de realçar o significado dessas duas reuniões para o incremento das relações culturais entre o Brasil e o Japão.

Hoje desejo dirigir uma palavra toda particular aos Professores de português, aos quais incumbe a alta missão de divulgar a cultura Brasileira através da língua.

Antes de mais nada, quero agradecer a presença dos Senhores Professores que, dos mais distantes rincões do Japão, acorreram a este chamamento em nome da união, harmonia e dedicação a causa da cultura Brasileira no Japão.

A própria presença dos Senhores Professores em Chuzenji é uma garantia para o êxito deste I Encontro.

Bem sei que não podemos esperar e menos ainda exigir milagres no que toca ao setor propriamente específico do ensino do Português no Japão. Entretanto, quero desde já conchamar-vos para que se unam em torno do problema central deste Encontro, que é, no entender do Governo brasileiro, a harmonização, a uniformização e o disciplinamento das normas do ensino do Português.

Meu Governo está convencido de que a expansão da cultura Brasileira em bases sólidas depende da eficiência dos métodos de ensino da língua. Esse difícil e complexo problema, cujas dimensões são um desafio a argúcia e sobretudo, a vossa dedicação, desejo colocar em pauta desde já, pois o tempo é premente e a solução será tanto mais rápida, quanto mais depressa o atacarmos.

O primeiro aspecto que desejo ver examinado e resolvido pelos Senhores Professores, com a possível urgência, é a questão da uniformidade da gramática e dos textos, sem o que o ensino de qualquer língua jamais será realizado com proficiência e rendimento.

Faço votos para que em 1966 me seja dado o prazer de rever os Senhores Professores neste mesmo local, pois estou certo de que este Encontro é realmente o primeiro de uma longa série de outros que se sucederão para o aperfeiçoamento dos métodos de ensino e estudo da língua portuguesa no Japão.

(Alvaro Teixeira Soares)
Embaixador do Brasil

23 de julho de 1965.

Após a leitura da mensagem, o Prof. Ikegami pronunciou uma conferência sobre: "Problemas de Fonética Portuguesa Comparada", à qual se seguiu um animado debate.

A seguir teve início o Encontro propriamente dito dos professores.

1.ª Sessão: Em primeiro lugar, foi examinado o resultado do Questionário sobre "Estado Atual da Língua Portuguesa no Japão - Julho 1965". Este Questionário tinha sido distribuído aos professores para que o respondessem até o Encontro. Alguns dados:

1. Cursos universitários:
 - a) Universidades com Departamento de Português: 2
 - Univ. de Est. Estr. de Tóquio
 - Univ. Sofia, Tóquio
 - b) Universidades com Cursos de Português como 2ª ou 3ª língua estrangeira: 14
2. Cursos Gerais de Português (Especiais/Noturnos): 6
3. Número de professores: Total: 50 ; Japoneses: 24, estrangeiros: 26 (Portugueses:2; brasileiros: 22; alemão: 1; argentino: 1)
4. Número de estudantes:

| | |
|------------------------------|--------------|
| - nos 2 Departamentos | : 160 |
| - como 2ª língua estrangeira | : 660 |
| - como 3ª " " | : 310 |
| - em Cursos vários | : <u>150</u> |
| Total : | 1.280 |

2.^a Sessão: Propostas e sugestões: Foram apresentadas e aprovadas as seguintes :

1. Necessidade de mais e melhores dicionários, livros de texto e livros de leitura e melhoramento das bibliotecas em geral.
2. Formação de professores.
3. Estudar a fundação de novos Departamentos de Português.
4. Estudar a criação de cursos de Português e problemas luso-brasileiros em universidades interessadas.
5. Estudar a criação de um Centro Cultural Brasileiro, como órgão coordenador e promotor.
6. Foi decidida, por unanimidade, a fundação da "**Associação de Professores de Português**" (APP). E para concretizar a decisão, procedeu-se logo à eleição da primeira diretoria, que ficou assim constituída :
 - a) Diretoria: Presidente: Prof. V. Lorscheiter
 - 1.^o Secretário: Prof. M. Ikegami
 - 2.^o Secretário: Prof. M. Crespo
 - b) Sede: O Centro Luso-Brasileiro da Universidade Sofia
 - c) Atividades: - As acima mencionadas (n.^o 1 a 5)
 - Realizar uma Assembléia Geral Anual
 - Editar, logo que possível, uma revista anual, com trabalhos dos membros.
 - Elaborar os Estatutos.
7. Outras sugestões recolhidas:
 - a) Continuar os Seminários
 - b) Realizar Semanas de Estudo nas diversas Universidades

- c) Promover concursos de oratória portuguesa
- d) Apresentar um Festival de Teatro, todos os anos.

Queremos mencionar aqui, que grande parte das despesas tanto do Seminário como do Encontro de Professores foi custeado pelo Governo Brasileiro através da Embaixada do Brasil em Tóquio. Fica, pois, expressa aqui, mais uma vez, nossa profunda gratidão por esta valiosa ajuda, sem a qual não teria sido possível realizar nem o Seminário nem o Encontro.

~~1966~~ - 16 a 22 de julho: VII.º Seminário de Estudos Brasileiros

Local: Nikko, Katsuragikan

- Número de estudantes participantes: 117, de 14 universidades e 2 grupos de estudo.
- Número de professores: 15, entre brasileiros e japoneses.
- A aula inaugural foi proferida pelo Sr. Luiz Carlos Lessa Vinholes, em nome do Senhor Embaixador do Brasil, Dr. Álvaro Teixeira Soares, impedido de comparecer por motivos de saúde.
- Programa: como no ano anterior, em suas linhas gerais.
- Encerramento: a grande novidade e que agradou a todos foi a execução do canto: "Hino do Seminário", composto especialmente para a ocasião pelo Sr. L. Vinholes.

Houve também dois concursos: de oratória e de canto e os melhores colocados receberam prêmios oferecidos pela Embaixada do Brasil.

- Impressão geral: Todos, tanto professores como estudantes, gostaram e apreciaram o Seminário-

rio. Houve várias sugestões, na maioria variações das que tinham sido feitas no ano passado.

- 22 e 23 de julho: IIº Encontro da APP

Local: Nikko, Katsuragikan

Logo depois do VIIº Seminário e ainda sob o patrocínio da Embaixada do Brasil, realizou-se o II. Encontro da APP. Estiveram presentes 14 professores, representando universidades, colégios e cursos de língua portuguesa. Participou também o Leitor Português, Prof. Pedro Canavarro.

No início, o Prof. M. Ikegami fez uma palestra sobre: "Expressões Portuguesas", seguida de debate. A seguir, o Presidente da APP apresentou breve relatório sobre as atividades do ano passado. Sendo este o primeiro ano de existência da Associação, o mais importante foi tomar consciência da situação, estabelecer contatos com professores e entidades relacionadas à finalidades e às atividades da APP. Financeiramente, a Embaixada do Brasil prestou valioso auxílio, fato este muito apreciado por todos.

Realizou-se, depois, a eleição da nova Diretoria que ficou assim constituída : Presidente: Prof. V. Lorscheiter ; 1º Secretário: Prof. Maurício Crespo ; 2º Secretário: Prof. Mineo Ikegami.

Assuntos tratados: Foi novamente discutida a fundação de um Centro Cultural Brasileiro e de um Centro de Estudos Brasileiros em Kansai. Também foi proposta a criação de uma "Associação de Amigos da América Latina", para fomentar o intercâmbio entre estudantes japoneses e bolsistas brasileiros.

Ficou decidida a realização de reuniões aca-

dêmicas (Colóquio), se possível, a partir já do próximo ano, e a publicação de uma revista da APP, para fomentar o estudo e a pesquisa nas várias áreas da realidade luso-brasileira. Foi considerada também muito útil a realização dos Seminários de Estudos Brasileiros.

1967 - 14 e 15 de julho: I.º Colóquio de Estudos Luso-Brasileiros

Local: Universidade Sofia, Tóquio

Por desejo unânime dos membros da APP, realizou-se este ano o I. Colóquio de Estudos Luso-Brasileiros. A finalidade era oferecer aos professores uma oportunidade para apresentar trabalhos sobre assuntos relacionados com seus estudos e pesquisas. O Colóquio contou ainda com o patrocínio e a ajuda financeira da Embaixada do Brasil em Tóquio, sendo Embaixador o Exmo. Sr. Dr. Álvaro Teixeira Soares.

Participaram neste Colóquio 20 professores de 10 universidades e instituições. Além disso, estiveram presentes bolsistas brasileiros e estudantes japoneses de várias universidades.

Foram apresentados e discutidos onze trabalhos. A apresentação e a discussão podia ser feita em português ou em japonês. Mas é de se notar que todas as exposições, com exceção de uma só, foram feitas em português, e os debates, na maior parte, também se fizeram em português.

Os trabalhos apresentados e debatidos neste I.º Colóquio se encontram, quase todos, no primeiro número de ANAIS - 1967, e o seu índice aparece no fim de todos os seguintes número da revista ANAIS. Esta publicação tornou-se também um importante veículo de comunicação e permuta com universidades,

institutos e estudiosos em outros países.

- 15 de julho: III.^a Assembléia Geral da APP
(Antes, Encontro da APP)

Local: Universidade Sofia, Tóquio

Na tarde do dia 15 de julho realizou-se a III.^a Assembléia Geral da APP.

Dos 14 membros inscritos na APP, estiveram presentes 12, achando-se 2 membros impedidos de comparecer.

No relatório sobre a situação e atividades da Associação, referente ao período de julho de 1966 a julho de 1967, o Presidente lembrou que, estando a APP ainda em fase de consolidação, as principais atividades se referiram ao fortalecimento do contato entre os membros, à troca de idéias e experiências no campo do ensino, bem como à publicação de material didático, podendo destacar-se a edição de um livro de leitura: "Curso Médio de Português", pela Daigakushorin, Tóquio.

Eleição da nova Diretoria: Presidente: Prof. V. Lorscheiter ; 1.^o Secretário: Prof. M. Ikegami ; 2.^o Secretário: Prof. Lino Stahl.

A seguir foi feito um reexame dos Estatutos da APP, mas, por falta de tempo, foi decidido que os membros estudassem o assunto durante o ano, para ser então considerado na próxima Assembléia Geral.

Seguiu-se a admissão de 7 novos membros, entre eles o Exmo. Sr. Faust Cardona, Cônsul Geral do Brasil em Kobe e Professor de Cultura Brasileira na Univ. de Estudos Estrangeiros de Quioto.

A fim de aproveitar melhor os trabalhos do

Colóquio, foi sugerido que os respectivos professores os apresentassem para publicação. Uma comissão de três professores foi encarregada de estudar os detalhes da publicação.

- 17 a 21 de julho: VIII.º Seminário de Estudos Brasileiros

Local: Nikko, Katsuragikan

Depois do I.º Colóquio e da III.ª Assembléia Geral da APP, e ainda sob o patrocínio e ajuda financeira da Embaixada do Brasil, num trabalho de conjunto de professores de Português, bem como de bolsistas brasileiros, realizou-se o VIII.º Seminário de Estudos Brasileiros.

Participaram, ao todo, 111 estudantes de 11 universidades e cursos de português de todo o Japão, orientados por 16 professores. A aula inaugural foi proferida pelo Exmo. Sr. Cônsul Faust Cardona, dando um rápido apanhado histórico das relações entre o Japão e o Brasil em todos os campos de atividade. Terminou Sua Excia. convidando a todos para, "unidos pela força do perfeito entendimento cultural", continuar este trabalho para o bem e o progresso de nossos povos.

O andamento geral do Seminário foi como em anos passados, só a parte das conferências sofreu modificação. Em vez das conferências gerais, foram organizados grupos de trabalho, espécie de seminários, ministrados pelos professores sobre assuntos de sua especialidade ou interesse.

É de se notar ainda que participou o Prof. Pedro Canavarro, leitor do Instituto de Alta Cultura de Lisboa, que também dirigiu um seminário sobre História Moderna de Portugal.

Sobre o Questionário: Foram devolvidos 100 questionários preenchidos (77 moços e 23 moças de 8 universidades).

Observações gerais :

1. Notou-se acentuada diferença entre estudantes de Departamentos e cursos de 2.^a ou 3.^a língua. Os primeiros, em geral, exprimiam opiniões mais claras, concretas, positivas.
2. Muitos lamentaram a falta de professores, de material de estudo e informação sobre o Brasil e Portugal, em especial na região de Kansai.
3. A grande maioria louvou os Seminários e desejaram a sua continuação.

1968 - 17 a 22 de julho: IX.^o Seminário de Estudos Brasileiros

Local: Nikko, Katsuragikan

Sob o patrocínio e a ajuda financeira da Embaixada do Brasil, realizou-se este IX.^o Seminário, durante 4 dias inteiros, um dia a mais que os anteriores, devido ao grande interesse dos participantes.

Participaram, ao todo, 124 estudantes de 13 universidades e um Centro Brasileiro. Foi o maior grupo até o presente e por falta de lugar, vários pedidos tiveram de ser recusados.

Os trabalhos foram dirigidos por 15 professores. A aula inaugural foi proferida pelo Exmo. Sr. Cônsul Faust Cardona que, entre outras coisas, recordou o "60.^o aniversário do início da Imigração Japonesa para o Brasil (1908)".

O resto do programa foi, em suas linhas, como em anos anteriores.

Ao final, os estudantes foram unânimes em expressar sua satisfação por esta oportunidade de estudo, e em especial, da possibilidade do contato diário com professores brasileiros.

(Por vários motivos, de ordem interna, financeira e outros, este seria o último Seminário de Estudos Brasileiros a realizar-se em tal escala. Fato este lamentado por muitos.)

- 31 de agosto a 1 de setembro: II.º Colóquio
IV.ª Assembléia Geral da APP

Local: Universidade Sofia, Tóquio

Ainda sob o patrocínio e a ajuda financeira da Embaixada do Brasil em Tóquio, realizou-se o II.º Colóquio e a IV.ª Assembléia Geral.

II.º Colóquio : A experiência do I.º Colóquio serviu de estímulo para a realização do II.º Os professores se sentiram mais animados e valorizados em seus estudos pela oportunidade que lhes era oferecida para apresentar e debater seus trabalhos com os colegas.

Estiveram presentes 15 professores e foram apresentados e debatidos 11 trabalhos.

Este Colóquio fortaleceu a idéia que todos já tinham de que é uma iniciativa de grande proveito e que devia ser mantida e desenvolvida no futuro.

IV.ª Assembléia Geral : Depois do relatório sobre as atividades da APP durante o ano passado, feito pelo Presidente, procedeu-se à eleição da nova diretoria que ficou assim consti-

tuída : Presidente: Prof. V. Lorscheiter ; 1.º Secretário: Prof. L. Stahl ; 2.º Secretário: Profa. Takiko Matsuo.

Empossada a nova diretoria, passou-se ao exame do programa e das atividades para o próximo ano.

Foi estudada a possibilidade e oportunidade de realizar o seguinte Seminário de Estudos Brasileiros, bem como o Colóquio e a Assembléia Geral na região de Kansai. Além de outras razões, esta medida estimularia professores e estudantes dessa região. Foi apontada uma comissão de professores para estudar a viabilidade deste projeto.

Ao encerrar a Assembléia, os professores expressaram de modo especial sua gratidão a Sua Excia. o Embaixador do Brasil, Dr. Álvaro Teixeira Soares, pelo grande interesse mostrado e pela ajuda financeira prestada a estas atividades, não só deste ano, mas também em anos passados.

1962- 30 e 31 de agosto: III.º Colóquio
V.ª Assembléia Geral da APP

Local: Tóquio, Hachioji, Interuniversity
Seminar House.

Devido a vários motivos, mas em especial, devido às agitações estudantis em muitas universidades, já havia mais de um ano, vários professores não puderam comparecer este ano.

III.º Colóquio: No Colóquio foram apresentados e debatidos nove trabalhos, que, como já foi indicado, aparecem publicados no correspondente número de ANAIS.

V.^a Assembléia Geral: No relatório anual apresentado, o Presidente da APP destacou que no ano anterior, o número de membros era de 19. Nesta ocasião, foram admitidos mais seis novos membros.

De ANAIS II (1968), foram impressos 700 exemplares, dos quais uns 400 exemplares foram enviados para vários países, em parte como propaganda, e em parte para atender pedidos de instituições e indivíduos. O maior número foi para os Estados Unidos (181), seguindo-se o Brasil (94), depois Portugal (27).

Eleição da nova diretoria : Presidente: Prof. V. Lorscheiter, 1.^o Secretário: Prof. Jaime Coelho ; 2.^o Secretário: Prof. Tetsutaro Takahashi.

Devido ao movimento estudantil nas universidades, e outros motivos, não foi possível realizar este ano o Seminário de Estudos Brasileiros. Foi proposto estudar a possibilidade de realizar o Seminário no seguinte ano, embora em escala menor.

Quanto à situação financeira da APP, foi mencionado que este ano a Associação não recebeu ajuda do Brasil. Por outro lado, Portugal deu uma ajuda para as atividades da APP.

1970 - 29 e 30 de agosto: IV.^o Colóquio
VI.^a Assembléia Geral da APP

Local: Universidade de Tenri.

IV.^o Colóquio: Neste Colóquio foram apresentados e debatidos seis trabalhos.

VI.^a Assembléia Geral: No início, o Presidente fez um relatório sobre a situação

e as atividades da APP. ANAIS III (1969): foram impressos 700 exemplares, dos quais 336 exemplares foram despachados.

Eleição da nova diretoria : Presidente: Prof. V. Lorscheiter ; 1.^o Secretário: Prof. Hideo Take-mura ; 2.^o Secretário: Prof. J. Coelho.

A impressão de ANAIS IV (1970) foi suspensa por falta de verba e também por vários trabalhos ainda não estarem prontos para impressão.

Para o seguinte Colóquio e Assembléia Geral foi escolhida a data de 19 e 20 de dezembro, em Tóquio. A época de dezembro foi considerada melhor que a de agosto. Também foi planejado um Seminário para estudantes de Kanto, a realizar-se de 28 de março a 1 de abril de 1971, no Seminar House de Tóquio, sob a direção do Prof. Crespo. Pensou-se também em um Seminário semelhante para estudantes de Kansai, também em Tóquio, possivelmente no começo do verão.

Viagem de Estudo a Portugal: O Prof. José Álvares conseguiu ajuda do Governo de Portugal para custear as despesas de 15 estudantes para seguir o Curso de Férias em Lisboa, de 5 de julho a 15 de agosto. As despesas de viagem correram por conta dos interessados.

1971- 19 e 20 de dezembro: V.^o Colóquio
VII^o Assembléia Geral da APP

Local: Tóquio, Shigaku Kaikan.

V.^o Colóquio: Foram apresentados e discutidos seis trabalhos.

VII.^a Assembléia Geral: Foi feito um relatório sobre as principais atividades e a situação financeira da APP.

A nova diretoria ficou assim constituída :
 Presidente: Prof. V. Lorscheiter ; 1.^o Secretário:
 Prof. J. Coelho ; 2.^o Secretário: Prof. H. Takemura.

A seguir foram apresentadas várias sugestões sobre a publicação de ANAIS, suspensa desde o ano anterior, por falta de verba. Algumas opiniões: entregar a edição à "Shinsekai" ou à "Daigaku Shorin", mas neste caso, em duas línguas (japonês e português); foi mencionado Macau, e finalmente que se procurasse conseguir a colaboração de organizações e empresas.

Foi programada também uma estadia de três semanas em Macau, em julho, para estudantes interessados em estudar intensamente o português durante esse período.

~~1972~~ 22 e 23 de dezembro: VI.^o Colóquio
VIII.^a Assembleia Geral da APP/AJELB

Local: Tóquio, Shigaku Kaikan

VI.^o Colóquio: Como em anos anteriores, foram apresentados e discutidos seis trabalhos.

VIII.^a Assembléia Geral: Eleição da diretoria :
 Presidente: Prof. V. Lorscheiter;
 1.^o Secretário: Prof. J. Coelho ; 2.^o Secretário:
 Prof. Shozo Kawamura.

Emenda dos Estatutos: O mais importante foi a mudança do nome da Associação; até esta data fora: Associação de Professores de Português (APP), mas, devido a razões técnicas e jurídicas, o nome foi mudado para: Associação

Japonesa de Estudos Luso-Brasileiros (AJELB) ; em japonês: "Porutogaru Burajiru Gakkai".

ANAIS: Por vários motivos a publicação de ANAIS teve de ser suspensa. Foi decidido publicar este ano um número que incluísse os anos 1970, 1971 e 1972 = ANAIS IV - VI.

Os Senhores Embaixadores de Portugal e do Brasil foram convidados a se tornarem Membros Honorários da Associação; ambos aceitaram gentilmente o convite.

1974 - 21 e 22 de dezembro: VII.^o Colóquio
IX.^a Assembléia Geral da AJELB
 Local: Tóquio, Shigaku Kaikan.

VII.^o Colóquio: Foram apresentados e debatidos cinco trabalhos.

IX.^a Assembléia Geral: Com a presença dos Senhores Embaixadores de Portugal, Dr. Manuel Rodrigues de Almeida Coutinho, e do Brasil, Dr. Paulo Leão de Moura, ambos Membros Honorários da AJELB, teve início a Assembléia Geral.

Nova Diretoria: Presidente: Prof. V.Lorscheiter;
 1.^o Secretário: Prof. Hajime Mizuno ; 2.^o Secretário:
 J. Coelho.

ANAIS: Os Senhores Embaixadores do Brasil e de Portugal se prontificaram a conseguir o financiamento para a publicação de ANAIS VII (1973).

~~1974~~ - 20 e 21 de setembro: VIII.^o Colóquio
X.^a Assembleia Geral da AJELB

Local: Tóquio, Shigaku Kaikan.

VIII.^o Colóquio: Compareceram menos professores como de costume, pois vários ainda se encontravam no exterior, ou por outros motivos. Foram apresentados e debatidos quatro trabalhos.

X.^a Assembléia Geral: No início da Assembléia Geral, o Presidente fez breve relatório sobre as atividades da AJELB durante o último ano e a situação financeira.

Nova Diretoria: Presidente: Prof. V. Lorscheiter;
 1.^o Secretário: Prof. J. Coelho ; 2.^o Secretário:
 Takao Ono.

~~1975~~ - 19 e 20 de dezembro: IX.^o Colóquio
XI.^a Assembleia Geral da AJELB

Local: Tóquio, Universidade Sofia.

IX.^o Colóquio: Apresentação e debate de cinco trabalhos.

XI.^a Assembléia Geral: No início foram admitidos três novos membros. A seguir, o Presidente fez breve relatório do ano findo.

Nova Diretoria: Presidente: Prof. V. Lorscheiter;
 1.^o Secretário: Prof. J. Coelho ; 2.^o Secretário:
 Profa. Atsuko Kojima.

Foi decidido que contribuições de artigos para ANAIS de não membros seriam aceitas só com a aprovação de uma comissão julgadora e pagamento de uma taxa de ¥15.000 ou US\$50 dólares.

~~1976~~ - 18 e 19 de dezembro: X.º Colóquio

XII.ª Assembléia Geral da AJELB

Local: Nagoya, Universidade Nanzan.

X.º Colóquio: Como convidada especial para este Colóquio esteve presente a Profa. Haydée Simões Magro, do Brazilian-American Cultural Institute, de Washington, cuja vinda foi patrocinada pelo Ministério das Relações Exteriores do Brasil, através da Embaixada do Brasil em Tóquio.

Foram apresentados e debatidos seis trabalhos.

XII.ª Assembléia Geral: Foram admitidos cinco novos membros: dois honorários e três efetivos. A seguir, o Presidente da AJELB expôs brevemente a situação financeira da Associação.

Eleição da nova Diretoria: Presidente: Prof. V. Lorscheiter ; 1.º Secretário: Prof. Momota Kawasaki ; 2.º Secretário: Prof. Kunihiko Takahashi.

Mudança nos Estatutos da AJELB: Art. 7: foi aprovada a elevação da taxa anual dos membros de ¥1.000 para ¥2.000, devido ao aumento geral dos preços e das despesas.

~~1977~~ - 3 e 4 de dezembro: XI.º Colóquio

XIII.ª Assembléia Geral da AJELB

Local: Universidade de Estudos Estrangeiros de Quioto.

XI.º Colóquio: Antes do início do Colóquio, o Prof. Tatsuo Mizobe, Presidente da Univ. de Estudos Estrangeiros de Quioto, dirigiu umas palavras de saudação e de boas-vindas aos professores e fez votos pelo pleno êxito do Colóquio e

dos trabalhos da Associação. A seguir foram apresentados e debatidos sete trabalhos.

XIII.^a Assembléia Geral: Foram admitidos seis novos membros efetivos.

Nova Diretoria: Presidente: Prof. V.Lorscheiter;
1.^o Secretário: Prof. M. Kawasaki ; 2.^o Secretário:
Prof. M. Ikegami.

Celebrando-se em 1978 o 70.^o aniversário da Imigração Japonesa no Brasil, foi sugerido que no Colóquio se tratassem alguns aspectos relacionados a esse fato.

~~1978~~ - 21 e 22 de outubro: XII.^o Colóquio
XIV.^a Assembléia Geral da AJELB

Local: Universidade de Estudos
Estrangeiros de Tóquio.

XII.^o Colóquio: Foram apresentados e debatidos sete trabalhos, alguns com referência aos 70 anos de Imigração Japonesa no Brasil.

XIV.^a Assembléia Geral: Foi admitido um novo membro efetivo da AJELB.

Nova Diretoria: Presidente: Prof. V.Lorscheiter;
1.^o Secretário: Prof. M. Kawasaki ; 2.^o Secretário:
Prof. Norio Kinshichi.

O preço de ANAIS para 1979 foi fixado, no Japão, em ¥1.000, mais correio, para membros; para não membros: ¥1.200, mais correio; para outros países: US\$8,00 incluindo correio.

Na data de 14 de outubro de 1978, a AJELB tinha 9 membros honorários e 35 efetivos.

~~193~~ 20 e 21 de outubro: XIII.º Colóquio
XV.ª Assembléia Geral da AJELB

Local: Tóquio, Universidade Sofia

XVIII.º Colóquio: No Colóquio esteve presente, como convidado especial, o Prof. Egon Schaden da Universidade de São Paulo, que se encontrava no Japão para uma série de conferências. Esteve presente também o Sr. Conselheiro José Ferreira-Lopes, representando o Senhor Embaixador do Brasil, Dr. Ronaldo Costa.

Foram apresentados e debatidos sete trabalhos.

XV.ª Assembléia Geral: Foi admitido um novo membro efetivo.

Nova Diretoria: Presidente: Prof. V. Lorscheiter;
 1.º Secretário: Prof. M. Kawasaki (para região Kansai);
 2.º Secretário: Prof. K. Takahashi (para região Kanto).

Para 1980, o 400.º aniversário da morte de Camões, foi planejado um Simpósio Camoniano em Tóquio, organizado pelo Prof. José M. Álvares.

Foi decidido que livros e revistas recebidas em permuta com ANAIS estivessem à disposição dos membros.

~~198~~ 25 e 26 de outubro: XIV.º Colóquio
XVI.ª Assembléia Geral da AJELB

Local: Universidade de Estudos
 Estrangeiros de Quioto.

XIV.º Colóquio: Foram apresentados e debatidos seis trabalhos; mais um trabalho do Prof. Tai Whan Kim, do Canadá, foi lido; ele não pôde estar presente, mas tornou-se membro.

XVI.^a Assembléia Geral: Foi admitido como Membro Honorário o Sr. Armando Martins, ex-embaixador de Portugal no Japão.

Nova Diretoria: Presidente: Prof. V. Lorscheiter; Secretário para Kanto: Prof. M. Ikegami ; Secretário para Kansai: Prof. M. Kawasaki.

Nova taxa para membros efetivos: foi aprovada a elevação de ¥2.000 para ¥3.000, devido ao aumento de preços em geral.

Quanto à qualificação para membros da AJELB, ficou decidido que estudantes dos cursos de pós-graduação já tem qualificação, examinando-se cada caso individualmente.

Foi rejeitada a proposta de publicar artigos em outras línguas em ANAIS.

Na data de 20 de outubro de 1980, a AJELB tinha 8 Membros Honorários e 31 membros efetivos.

1981 - 24 e 25 de outubro: XV.^o Colóquio
XVII.^a Assembléia Geral da AJELB

Local: Universidade Takushoku,
Hachioji, Tóquio.

XV.^o Colóquio: Participou no Colóquio a Profa. Marlene C. Gomes Mendes (do Instituto de Letras da Univ. Federal Fluminense), professora visitante na Univ. de Estudos Estrangeiros de Quioto.

Foram apresentados e debatidos seis trabalhos.

XVII.^a Assembléia Geral: Foram admitidos mais dois membros efetivos da AJELB.

Nova Diretoria: Presidente: Prof. V. Lorscheiter; Secretário para Kanto: Prof. M. Ikegami; Secretário para Kansai: Prof. M. Kawasaki.

Emenda dos Estatutos: Foram feitas duas emendas: Primeira: além da categoria de membros honorários e efetivos, foi estabelecida a de membro associado que abrange professores e pesquisadores de assuntos luso-brasileiros não residentes no Japão. Pagarão a taxa de US\$20,00, terão direito de receber ANAIS, publicar trabalhos, mas estão dispensados de votar. Segunda emenda: o mandato da Diretoria foi estendido para dois anos.

Na data de 16 de outubro de 1981, a AJELB teve 9 Membros Honorários e 47 efetivos.

~~1981~~ - 23 de outubro: XVI.º Colóquio
XVIII.ª Assembléia Geral da AJELB

Local: Universidade de Estudos
Estrangeiros de Osaka.

XVI.º Colóquio: Pela primeira vez, a AJELB reuniu-se nesta Universidade e por motivos do regime interno da Universidade, os trabalhos só puderam realizar-se das 9 às 17 horas do dia 23.

Foram apresentados e debatidos 7 trabalhos, entre eles o do Prof. Carlos M. Avighi da Univ. de São Paulo, professor visitante da Univ. de Estudos Estrangeiros de Osaka e novo membro da AJELB.

XVIII.ª Assembléia Geral: No início foi comunicada a adesão de três novos membros associados da AJELB.

Emenda dos Estatutos: Foi aprovada a emenda do Art. 7: Disposições financeiras, acrescentando-

-se a taxa dos membros associados: US\$20,00 (vinte dólares).

Foi também aprovado a confecção da lista de todos os membros da AJELB, constando: nome, universidade/organização, especialidade, endereço (com telefone).

Quanto à distribuição de ANAIS foi lembrado o seguinte: cada membro recebe um exemplar de cada edição e os contribuintes mais cinco exemplares do respectivo número.

1983 - 22 e 23 de outubro: XVII.º Colóquio
XIX.ª Assembleia Geral da AJELB

Local: Universidade de Estudos
Estrangeiros de Tóquio

XVII.º Colóquio: Antes de iniciar os trabalhos do Colóquio, foi apresentado novo membro efetivo da AJELB. Foram apresentados seis trabalhos.

XIX.ª Assembleia Geral: No início foi apresentada a Lista dos Membros da AJELB, folheto de 22 pp., em japonês e português.

Nova Diretoria: Presidente: Prof. V. Lorscheiter;
Secretário para Kanto: Prof. M. Ikegami ; Secretário para Kansai: Prof. M. Kawasaki.

A taxa dos membros associados teve de ser levantada de US\$20,00 para US\$25,00 dólares, devido às despesas de câmbio, bem como o preço de ANAIS de US\$8,00 para US\$15,00.

484- 20 e 21 de outubro: XVIII.^o Colóquio
XX.^a Assembléia Geral da AJELB

Local: Universidade Sofia, Tóquio

XVIII.^o Colóquio: Antes do início do Colóquio, os professores tiveram oportunidade de ver a exposição de livros e outro material organizado pelo Centro Luso-Brasileiro da Universidade Sofia, por ocasião da comemoração dos seus 25 anos de fundação. A seguir foram apresentados os três novos membros presentes.

Foram apresentados sete trabalhos.

XX.^a Assembléia Geral: No início foram apresentados os sete novos membros que se inscreveram na AJELB.

A taxa dos Membros Associados teve de ser levantada para US\$28,00 dólares, e o preço de ANAIS para US\$18,00 dólares, devido ao aumento da taxa de câmbio.

O programa do próximo Colóquio focalizará a pessoa e obra de Fernando Pessoa, com a participação de um/a especialista no assunto.

485- 19 e 20 de outubro: XIX.^o Colóquio
XXI.^a Assembléia Geral da AJELB

Local: Primeiro dia, na International House of Japan ; segundo dia, Universidade Sofia, Tóquio.

XIX.^o Colóquio: Comemoração do Cinquentenário da morte de Fernando Pessoa (1888-1935).

Esteve presente a Profa. Dra. Maria José de Lancastre, professora de literatura portuguesa na Univ. de Pisa, Itália, e especialista em Fernando

Pessoa. Sua presença se tornou possível graças à ajuda da Fundação Gulbenkian. A Profa. Lancastre falou sobre: "Um Poeta, uma Cidade, uma Literatura"; seguiu-se a apresentação de diapositivos sobre a família e vida de Fernando Pessoa. Foram apresentados mais dois trabalhos sobre o poeta, intercalados com recitação em português e japonês, de algumas poesias suas. Houve também uma bela exposição de obras de Fernando Pessoa e livros sobre ele.

No dia 20, o Colóquio foi transferido para a Univ. Sofia, sendo apresentados mais dois trabalhos.

XXI.^a Assembléia Geral: Mais três membros se inscreveram na AJELB.

Nova Diretoria: Presidente: Prof.V.Lorscheiter; Secretário para Kanto: Prof. M. Ikegami ; Secretário para Kansai: Prof. M. Kawasaki.

~~1986~~ - 18 e 19 de outubro: XX.^o Colóquio
XXII.^a Assembléia Geral da AJELB

Local: Universidade de Estudos
Estrangeiros de Quioto

XX.^o Colóquio: Foram apresentados e debatidos seis trabalhos.

XXII.^a Assembléia Geral: Dois novos membros se inscreveram na AJELB.

Foi sugerido que no próximo Colóquio os professores apresentassem os livros de texto usados nas diversas universidades, para conhecimento mútuo. Foi também proposto que a AJELB estudasse e, se possível, elaborasse um Documento a respeito do Projeto da Reforma Ortográfica da Língua Portuguesa, atualmente debatido em Portugal e no Brasil.

98 - 17 e 18 de outubro: XXI.^o Colóquio
XXIII.^a Assembléia Geral da AJELB

Local: Universidade de Estudos
 Estrangeiros de Osaka

XXI.^o Colóquio: Foram apresentados e debatidos quatro trabalhos. Durante o tempo restante disponível, representantes das quatro universidades, onde há Departamento de Português, apresentaram seu Programa de Estudos, Métodos e Material usado. Assim falaram representantes das Universidades de Estudos Estrangeiros de Tóquio, de Quioto e de Osaka e da Universidade Sofia.

XXIII.^a Assembléia Geral: No início foram apresentados os 8 novos membros da AJELB.

Nova Diretoria: Presidente: Prof. V. Lorscheiter; Secretário para Kanto: Prof. M. Ikegami ; Secretário para Kansai: Prof. Akira Kono.

Propostas apresentadas: 1) Foi novamente proposta a publicação de ANAIS em português e japonês. O assunto seria estudado até a próxima Assembléia Geral. 2) Outro assunto mais uma vez apresentado foi o de realizar o Colóquio e Assembléia Geral em algum lugar fora das Universidades, ligado historicamente ao mundo lusitano. O assunto também seria estudado até o próximo ano.

98 - 15 e 16 de outubro: XXII.^o Colóquio
XXIV.^a Assembléia Geral da AJELB

Local: Universidade Takushoku, Tóquio

XXII.^o Colóquio: Foram apresentados e debatidos cinco trabalhos. No fim, o Prof. Pe. António Freire, S.J. da Faculdade de Letras da

Universidade Católica Portuguesa, Braga, atualmente professor visitante na Univ. Sofia, dirigiu breve saudação aos presentes, animando-os a prosseguirem em seus estudos, especialmente da Língua Portuguesa. Foram ainda apresentadas as três professoras da Universidade Federal de Juiz de Fora: Maria Nazaré de Carvalho Laroca, Nadime Bara e Sonia Maria da Cunha Pereira, em visita didático-cultural aos Departamentos de Língua Portuguesa no Japão. Expuseram o sistema e método de ensino de Português para Estrangeiros desenvolvido pelas três professoras. Trouxeram também uma saudação do Magnífico Reitor da UFJF, Dr. Sebastião Marsicano Ribeiro aos membros da AJELB.

XXIV.^a Assembléia Geral: No início foram apresentados dois novos membros.

A decisão sobre a edição bi-língüe de ANAIS foi adiada até o próximo ano. A respeito da realização do Colóquio e Assembléia Geral em algum lugar histórico, houve bastantes votos contra, devido a despesas, etc.

1989 - 21 e 22 de outubro: XXIII.^o Colóquio
XXV.^a Assembleia Geral da AJELB

Local: Primeiro dia, em Kokusai Bunka Kaikan (International House of Japan), segundo dia, na Univ. Sofia, Tóquio.

XXIII.^o Colóquio: Foi apresentado o convidado especial para este Colóquio, o Prof. Basílio Agostini da Univ. Federal do Paraná, Curitiba, que proferiu uma conferência sobre: "Situação Atual da Língua Portuguesa no Brasil". Foram apresentados e debatidos mais três trabalhos.

XXV.^a Assembléia Geral:

Nova Diretoria: Presidente: Prof.V.Lorscheiter;
Secretário para Kanto: Prof. M. Ikegami ; Secretário
para Kansai: Prof. A. Kono.

Em 1990 se celebrará o Jubileu de Prata da AJELB. Ficou decidido que a partir de 1990, ANAIS será bi-língüe: português e japonês. Os artigos em japonês, cada autor deverá prepará-los (Word-processor). Cada contribuinte deverá apresentar também um breve resumo (até 5 linhas) na outra língua. Foi também decidido mudar o tamanho e a capa de ANAIS. O tamanho será B5, e na capa constará além do título também o índice.

O Colóquio e a Assembléia Geral, como todos os anos: 20 e 21 de outubro de 1990, na Univ. Sofia. No dia 20 (sáb.) das 17:30 às 19:30: Festinha Comemorativa dos 25 anos da fundação da AJELB.

* * * * *

Vimos, assim, em traços rápidos e esquemáticos, a caminhada da Associação Japonesa de Estudos Luso-Brasileiros em seus 25 anos de existência. Muitos dados e acontecimentos, trabalhos e serviços de membros, como também e especialmente, o apoio financeiro e moral de amigos e benfeitores tanto do Japão como de Portugal e do Brasil não puderam ser mencionados, em seus detalhes, nesta visão geral.

Estamos certos, porém, que o mesmo ideal nos anima a todos: o de promover o mútuo conhecimento, através do estudo e da pesquisa do passado, que servirá de base para o ensino do presente, que, por sua vez, preparará o futuro, um futuro em que haja pleno respeito pelo outro e mútua colaboração para o bem de todos. (V.L.)

AJUDA FINANCEIRA RECEBIDA

Como já foi mencionado, antes, no relatório, o Governo do Brasil, através e por empenho da Embaixada em Tóquio, deu, desde o início, o seu apoio financeiro às atividades da Associação de Professores de Português, depois, Associação Japonesa de Estudos Luso-Brasileiros.

No começo, a partir de 1965, a ajuda foi para a realização dos Seminários de Estudos Brasileiros, para os Encontros de Professores de Português e, a partir de 1967, para os Colóquios Luso-Brasileiros e a publicação de ANAIS.

As contribuições da parte do Governo de Portugal, também, em grande parte, através da Embaixada, tiveram início em 1969 e se destinaram principalmente à ajuda da publicação de ANAIS.

São as seguintes as contribuições recebidas:

Do Brasil: entre 1965 e 1978: ¥4.358.457

De Portugal:

entre 1969 e 1986: ¥1.458.000

Total: ¥5.816.457

Além disso, recebemos algumas contribuições pessoais dos Senhores Embaixadores, Ministro-Conselheiro do Brasil, Cônsul Geral do Brasil em Kobe e Membros Honorários.

Fica aqui expressa, mais uma vez, a nossa profunda gratidão por esta valiosa ajuda às atividades da AJELB.

E S T A T U T O S

da

Associação Japonesa de Estudos Luso-Brasileiros
(AJELB)

Art. 1: DENOMINAÇÃO E SEDE:

- § 1. Por meio destes Estatutos se estabelece uma associação acadêmica que se denominará "Associação Japonesa de Estudos Luso-Brasileiros (AJELB)"; em japonês: "Porutogaru-Burajiru Gakkai".
- § 2. Por sede da Associação se estabelece o Centro Luso-Brasileiro da Universidade Sofia, em Tóquio.

Art. 2: OBJETIVOS:

O objetivo principal da AJELB é fomentar no Japão os estudos da língua portuguesa e demais estudos relacionados com o mundo luso-brasileiro, mediante a cooperação de seus membros.

Art. 3: MEMBROS:

- § 1. Constituirão os membros efetivos da Associação os professores e pesquisadores de língua e cultura luso-brasileira no Japão.
- § 2. Constituirão os membros associados da Associação professores e pesquisadores de língua e cultura luso-brasileira não residentes no Japão.
- § 3. Os membros efetivos e associados serão admitidos na Associação mediante recomendação de um membro efetivo ou associado e aprovação da Diretoria.

- § 4. Poderão ser membros honorários da Associação personalidades de reconhecido mérito e animadas de sincero desejo de colaborar para a consecução dos objetivos da Associação, mediante proposta da Diretoria e aprovação da maioria simples dos membros.
- § 5. Todos os membros, efetivos, associados, e honorários, têm o direito de participar nas reuniões, de apresentar trabalhos e de receber publicações e comunicações.

Art. 4: DIRETORIA E SUAS ATRIBUIÇÕES:

- § 1. A Diretoria da Associação será integrada por 3 membros, um Presidente e dois Secretários, mais os membros que a Associação, em suas Assembléias, julgar necessário nomear.
- § 2. O mandato de todos os membros da Diretoria será de dois anos, podendo ser reeleitos.
- § 3. São as seguintes as atribuições dos membros da Diretoria:
- a) Presidente:
- (1) representa a Associação;
 - (2) executa, auxiliado pela Diretoria, o que for determinado pela Assembléia;
 - (3) convoca Assembléia Geral Ordinária e Extraordinária;
 - (4) resolve, consultando os demais membros da Diretoria, os problemas ordinários relacionados com a Associação.
- b) Demais membros:
- desempenham as funções de auxiliares, assessores e consultores do Presidente, no que se refere aos itens 2, 3 e 4.

Art. 5: ASSEMBLÉIAS E VOTAÇÃO:

§ 1. Serão duas as Assembléias:

- a) Assembléia Geral Ordinária;
com o objetivo de eleger a nova diretoria e discutir os assuntos ordinários da Associação; será realizada uma vez por ano. Para o quorum se requer a presença da metade dos membros, incluindo os votos delegados.
- b) Assembléia Extraordinária;
com o objetivo de discutir assunto de importância cuja deliberação requer a participação de todos os membros; a conveniência da convocação da Assembléia é determinada pelo Presidente.

§ 2. Nas Assembléias, os assuntos serão resolvidos ordinariamente por meio de discussão franca e direta entre os seus membros.

§ 3. Em caso de votação, principalmente na eleição da Diretoria, que será sempre necessária, as decisões serão tomadas por maioria simples dos membros presentes e votos delegados.

§ 4. Os membros efetivos terão direito ativo e passivo de voto.

Art. 6: ATIVIDADES:

De acordo com os seus objetivos, a Associação mantém as seguintes atividades:

- a) difusão da língua e cultura luso-brasileira e melhoramento do nível do seu ensino no Japão;
- b) reuniões acadêmicas de estudo da língua portuguesa ou de assuntos relacionados com o mundo luso-brasileiro;

- c) intercâmbio cultural com associações estrangeiras;
- d) promoção da publicação de pesquisas dos membros.

Art. 7: DISPOSIÇÕES FINANCEIRAS:

Os Membros Efetivos da Associação pagarão a taxa anual de ¥3.000 (três mil ienes); os Membros Associados US\$28,00 (vinte e oito dólares), ficando livre a contribuição dos Membros Honorários. Os Membros Efetivos e Associados que não paguem a taxa poderão incorrer na perda dos seus direitos.

Art. 8: VIGORAMENTO DOS ESTATUTOS E SUA REFORMA:

Estes Estatutos entrarão em vigor a partir da data de sua aprovação e poderão ser reformados por voto da maioria simples dos membros reunidos em Assembléia Geral.

PARÁGRAFO ÚNICO: Em caso de dissolução da Associação, o destino do patrimônio será decidido por voto da maioria simples dos membros reunidos em Assembléia Geral.

Estes Estatutos foram aprovados na Assembléia Geral de 25 de setembro de 1965, e as últimas emendas foram aprovadas na 20.ª Assembléia Geral de 21 de outubro de 1984.

Camacho, Maria Helena*
Cardona, Faust
Chabasinski, Wojciech
Coelho, Jaime*
Crespo, Maurício
Dias, Jorge*
Fukazawa, Akira*
Fukushima, Cristina
Fukushima, Masanori*
Furuno, Kikuo*
Gemeinder, Georg
Giannaccini, Marbo
Giannaccini, Rosa
Guerra, Marco Antônio*
Guerra, Sônia Regina*
Hayashida, Masashi*
Hinata, Noêmia*
Hino, Hiroshi
Hirai, Masaaki*
Hirata, Miguel
Hirose, Tadaaki*
Horisaka, Kotaro*
Ikegami, Mineo*
Ishii, Yoichi
Iyanaga, Shiro*
Kawamura, Carolina
Kawamura, Shozo*
Kawasaki, Momota*
Kim, Tai Whan
Kinshichi, Norio*
Kishino, Hisashi*
Kiyosawa, Yoshie*
Kobayashi, Kazuteru*
Kojima, Atsuko
Konó, Akira*
Kunisawa, Keiichi
Kurosawa, Naotoshi*
Lorscheiter, Vendelino*

Luyten, Joseph M.*
Luyten, Sônia M. Bibe*
Magaldi, Rosina Maria*
Maki, Kazuyoshi
Matsumoto, Mikio
Mihara, Yukihisa
Mira, João Monoel Lima*
Mita, Chiyoko*
Mizuno, Hajime*
Nishihara, Paulo
Nishimura, Vera Lúcia Yoshie
Nishio, Hagemu
Okamura, Junko*
Okamura, Takiko*
Ono, Takao*
Pinto, Virgílio Noya
Rodrigues, José Júlio*
Roque, Átila Pereira
Sano, Yasuhiko*
Sato, Koichiro*
Schwade, Arcádio
Silva, Maximiano de Carvalho e
Stahl, Lino
Sumida, Ikunori*
Sumie, Junji*
Tachi, Harue
Tadokoro, Kiyokatsu*
Takahashi, Kohei*
Takahashi, Kunihiko*
Takakura, Luísa Akemi*
Takeda, Chika*
Takeda, Hiroyuki
Takehara, José*
Takemura, Hideo
Tanaka, Mitsue
Toko, Hirohide*
Tomino, Mikio*
Tomoda, Kinzo

Toyoshima, Tetsutaro
Verdi, Maria Lígia*
Wajima, Elena Titose*
Yabunaka, Satoru*
Yagyū, Megumi*
Yamada, Mutsuo
Yamaguchi, Hideo
Yamaoka, Sayaka
Yoshikae, Nelson
Yoshiura, Kaname*

P U B L I C A Ç Õ E S

da

Associação Japonesa de Estudos Luso-Brasileiros

- ANAIS I (1967) - XXIII (1989)

Contendo trabalhos apresentados nos Colóquios de Estudos Luso-Brasileiros, bem como outras contribuições de membros da AJELB.

(Cf. "Índice de ANAIS I - XXIII", p. 47)

- Curso de Português - Livro de Leitura II.

Associação de Professores de Português,
Tóquio, 1966, 150p.

Livro de Leitura e Exercícios, de nível médio, dividido em sete partes: 1. História e Geografia do Brasil ; 2. Tipos do Brasil ; 3. Contos e Lendas ; 4. Descrições e Narrações ; 5. Cartas ; 6. Conversação ; 7. Poesias e Hinos.

- Curso de Português - Livro de Leitura III.

Associação de Professores de Português,
Tóquio, 1966, 121p.

Livro de Leitura para nível mais avançado. Contém trechos seletos de autores clássicos brasileiros e portugueses, com notas explicativas. Divide-se em duas partes : 1. Narrações e Descrições em geral. 2. Descrições e Tipos Regionais.

- Curso Médio de Português - Livro de Leitura.

Daigakushorin, Tóquio, 1967, 130p.

Livro de Leitura e de Exercícios, para alunos de nível médio, elaborado por um grupo de professores, membros da AJELB. Contém seis partes: I. Contos e Lendas. II. Tipos do Brasil. III. História e Geografia do Brasil. IV. Descrições e Narrações. V. Cartas. VI. Poesias e Hinos. A última parte do volume contém explicações em japonês, referentes a cada lição.

- Brasil - Aspectos Essenciais para a Compreensão do Brasil.

Tóquio, AJELB, 1977, 146p.

Texto original elaborado pelo Ministério das Relações Exteriores do Brasil, por ocasião da visita do Presidente E. Geisel ao Japão, em 1976.

A presente edição bi-língüe, japonês e português, foi preparada pela Associação Japonesa de Estudos Luso-Brasileiros (AJELB), em colaboração com o Centro Luso-Brasileiro da Universidade Sofia.

『今日のブラジル』 ブラジル理解の基礎知識
ポルトガル・ブラジル学会 編 1977 146p.

1976年9月15日より20日にわたるブラジル国
ガイゼル大統領の訪日に当たりブラジル外務省が作成した
資料(ポルトガル語・日本語)を、特別の許可により、
ポルトガル・ブラジル学会が編集して上智大学ポルトガル・
ブラジルセンターの協力により出版したものである。

ÍNDICE DE ANAIS

No. I (1967) - No. XXIII (1989)

Anais I (1967)

Linguística e Literatura

- Um Novo Conceito de Gramática
 por Mineo Ikegami
- Acentuação Gráfica da Língua Portuguesa
 por Takiko Matsuo
- O Índio nas Obras Indianistas de José de Alencar
 por Lino Stahl

História

- Antecedentes da Chegada dos Portugueses ao Japão
 por Pedro Canavarro
- Sobre o Plano da "História da Igreja do Japão"
 Escrito pelo Pe. João Rodrigues Tçuzu, S.J.
 por Yasuhiko Sano

Ciências Sociais

- Sobrevivência do Paternalismo na Sociedade
 Brasileira
 por Maurício Crespo
- Administração Municipal no Brasil
 por Masanori Fukushima
- Aspectos da Universidade Brasileira
 por Vendelino Lorscheiter

Anais II (1968)

Linguística e Literatura

- A Língua Estrangeira e Seu Ensino
 por José de Campos Bretas
- Evolução do Tratamento
 por Takiko Matsuo

Alguns Aspectos de "Grande Sertão: Veredas"
de João Guimarães Rosa por Lino Stahl
O Artigo e Sua Essência

por Hideo Takemura

História

Em Torno do Estudo da "Carta de Pero Vaz
de Caminha" por Yasuhiko Sano

O Desterro do Pe. João Rodriguez (Tçuzu)
do Japão por Arcádio Schwade

Ciências Sociais

Proletariado Brasileiro e Seu Comportamento
Político por Maurício Crespo

Presidencialismo no Brasil
por Masanori Fukushima

Os Escritos de João Maurício Rugendas
por Vendelino Lorscheiter

Viola no Brasil
por Harue Tati

Anais III (1969)

Lingüística e Literatura

A Aprendizagem Inteligente Duma Língua Estrangeira
Como Meio de Formação Humana

por Jaime Coelho

Wenceslau de Moraes : Sua Vida, Obras e Pensamento
por Tetsutaro Takahashi

Ciências Sociais

Classe e Conflito no Processo Político Brasileiro
por Maurício Crespo

Estudos Etnográficos e de Relações Raciais
no Brasil por Vendelino Lorscheiter

Os Investimentos Japoneses no Brasil
e Suas Perspectivas por Hajime Mizuno

Anais IV~VI (1970-72)

Lingüística e Literatura

Como Definir Substantivos e Adjetivos Portugueses
por Takao Ôno
Manuel Bandeira: Sua Poesia e Seu Espírito
por Yasuhiko Sano
Bicho e Homem: Uma Tentativa Para a Análise
Estrutural de "Vidas Secas" de Graciliano
Ramos por Kunihiko Takahashi

Ciências Sociais

Cantadores de Piracicaba
por Harue Tati
Problema da Mão-de-Obra na Economia do Café:
Esboço Histórico do Movimento Imigratório
no Estado de São Paulo por Mikio Tomino
Cristocentrismo versus Etnocentrismo: Uma Ca-
racterística do Colonizador Português,
segundo Gilberto Freyre
por Vendelino Lorscheiter
Nova Era das Relações Nipo-Brasileiras
por Hajime Mizuno

Comunicações

Anais VII (1973)

Lingüística

Em Torno do Artigo Definido e do Pronome
Demonstrativo por Mineo Ikegami

Ciências Sociais

"No Japão", por Manuel de Oliveira Lima
por Paulo da Costa Franco

A Parenética Portuguesa e a Ideologia Contra-Revolucionária(1820-1834) por José Marinho Álvares
 Reforma Universitária Brasileira: Alguns Aspectos
 por Vendelino Lorscheiter

Anais VIII (1974)

Linguística

Algumas Observações Sobre o Gênero
 na Língua Portuguesa por Takao Ôno

Ciências Sociais

Alguns Aspectos do Projeto Rondon
 por Marbo Giannaccini
 Música Popular Brasileira: Influências e Evolução
 por Rosa Giannaccini
 A Mãe Preta de São Paulo - O Brasil Hoje e Amanhã -
 por Bruno Moser por Vendelino Lorscheiter
 As Obras do Pe. João Rodrigues Tçuzu Sobre
 o Estudo da Língua Portuguesa
 por Yasuhiko Sano
 O "Livro" de Duarte Barbosa: Um Relatório do Oriente
 no Século XVI por José Marinho Álvares
 Uma Avaliação da Vida e Obra de
 Fernão Mendes Pinto por Mitsue Ishikawa
 Macau: Aspectos Culturais da Sua História
 por Jaime Coelho
 Os Estudos Brasileiros no Japão
 por Hajime Mizuno

Comunicações

Anais IX (1975)

Artigos

Algumas Notas Sobre os Verbos Incoativos
 em Português por Akira Kono
 Frequência de Ocorrência de Alguns Verbos e
 Suas Formas por Vendelino Lorscheiter

Intercâmbio, Presença e Influência da Poesia
Concreta Brasileira no Japão

por L.C. Vinholes

Escritores da "História Trágico-Marítima"

por Takiko Okamura

Hideyoshi Banqueteia o Imperador - A Diplomacia
em Manobras -

por Michael Cooper

Resenhas

"The Political System of Brazil: Emergence
of a 'Modernizing' Authoritarian Regime
1964-1970" de Ronald M. Schneider

por Maria Cristina Fukushima

"Correspondência Comercial Portuguesa do Brasil"
de Hajime Mizuno e Takao Ôno

por Yasuhiko Sano

Comunicações

Anais X (1976)

Artigos

O Ensino de Português para Estrangeiro no Mundo
Moderno

por Mercedes Marchant Wolff

O Ensino da Língua Portuguesa no Japão:

Reflexões e Perspectivas

por José Marinho Álvares

Existe em Português a Transformação de Pronomi-
nalização Fraca?

por Mineo Ikegami

Alguns Aspectos das Relações Internacionais

do Mundo Português

por Yasuhiko Sano

Afinal, Que Foi a Revolução Portuguesa?

por Jaime Coelho

A Igreja e os Índios no Brasil: Pastoral

Indigenista Ontem e Hoje

por Vendelino Lorscheiter

Teatro Brasileiro no Japão

por L.C. Vinholes

Teatro Jesuítico no Japão

por Michael Cooper

Resenha

"O HAICAI essencialmente japonês?", de Oldegar
Franco Vieira

Comunicações

Interesse da Cultura Luso-Brasileira no Japão,
visto através de um inquérito realizado
por Manuela Álvares

Conferência da Escritora Dinah Silveira de Queiroz

Anais XI (1977)

Artigos

A Língua Portuguesa nos Estados Unidos

por Akira Kono

Vocábulos Portugueses Introduzidos

na Língua Japonesa

por Kazuyoshi Maki

O Virgílio de Portugal e a Prata do Japão

por Koichiro Sato

Em Torno da "História do Japão" de Luis Frois

por Momota Kawasaki

A Voz dos Que Não Têm Voz

por Vendelino Lorscheiter

Literatura de Cordel - Poesia do Povo Nortestino

por Yasuhiko Sano

Os Investimentos Japoneses no Brasil

- Motivos, Realidade e Problemas

por Hajime Mizuno

Anais XII (1978)

Artigos

O Papel do Emigrante na História e no Futuro

por Jaime Coelho

- Shindo-Renmei : A Contradição entre a Instituição
Social e a Meta Cultural dos Japoneses
no Brasil por Chiyoko Mita
Naturalização de Brasileiros no Japão
por L.C. Vinholes
Metodologia do Ensino de Português
para Japoneses por José Álvares
Mistura de Formas de Tratamento e o Modo
Imperativo no Português de Portugal e
no Português do Brasil por Akira Kono
Expansão do Pensamento Português do Século
XV-XVII no Japão e no Brasil
por Yasuhiko Sano

Comunicação

- A Propósito dos 70 Anos de Imigração Japonesa
no Brasil por Vendelino Lorscheiter

Anais XIII (1979)

Artigos

- Carnavalização e Literatura
por Helena Parente Cunha
Os Factores Geográficos na Literatura
do Nordeste Brasileiro por Kiyokatsu Tadokoro
Pensamentos dos Primeiros Jesuítas
sobre os Índios e Negros no Brasil
por Yasuhiko Sano
A Arte Namban: "Fuzokuga" da Época Momoyama
por José Álvares
O Tratamento "Tu" no Português do Brasil
por Akira Kono

Comunicações

- A Realidade Latino-Americana Vista de Puebla
por Vendelino Lorscheiter

Resenhas

Algumas Novelas Japonesas sobre a Emigração
 Japonesa ao Brasil e Outros Países
 por Yasuhiko Sano

Anais XIV (1980)

Artigos

Aspectos Verbais
 Fernão Lopes, Cronista do Dealbar da Era Moderna
 em Portugal
 Sobre a Conversão de Dosan Manase
 Igreja, Cultura e Liberdade - João Paulo II
 no Brasil
 Sistema de "Tratamento" em Português
 Wenceslau de Moraes e a Primitividade Japonesa
 O Étimo do Português BONZO

por José Takehara
 por Jorge Dias
 por Momota Kawasaki
 por Vendelino Lorscheiter
 por Shiro Iyanaga
 por Noêmia Hinata
 por Tai Whan Kim

Comunicação

Anais XV (1981)

Artigos

O Barroco Brasileiro como Visão de Mundo
 Situação Atual da Literatura no Rio Grande do Sul
 Notas Bibliográficas sobre Obras Essenciais
 da Cultura Brasileira

por Virgílio Noya Pinto
 por Regina Zilberman
 por Jorge Dias

- Uma Experiência Filológica
 por Marlene C. Gomes Mendes
- O Caráter Mítico da Imagem do Japão em
 DAI NIPPŌN de Wenceslau de Moraes
 por Helmut Feldmann
- Um Estudo de Wenceslau de Moraes sobre "Ko-Haru"
 por Akira Fukazawa
- Discurso e Estilo em UMA ABELHA NA CHUVA
 por Shiro Iyanaga
- Uso dos Artigos em Português
 por Masayasu Abe

Comunicações

Anais XVI (1982)

Artigos

- Sérgio Buarque de Holanda (1902-1982)
 In Memoriam
 por Vendelino Lorscheiter
- Atualidade da Literatura Brasileira
 por Regina Zilberman
- José de Anchieta, Apóstolo do Brasil
 - Notas Bio-Bibliográficas
 por Jorge Dias
- Tempos Verbais no Português
 por José Takehara
- Situação Actual da Língua Portuguesa
 no Contexto das Relações Luso-Nipônicas
 por Manuela Álvares
- A Venda dos Bens Nacionais em Portugal
 por Akihiko Azuma
- Erros Típicos Cometidos pelos Japoneses
 no Uso dos Artigos em Português
 por Masayasu Abe

Questões Atuais nos Estudos de Cultura Brasileira
por Carlos Marcos Avighi

Recensão Crítica

Luiz Carlos Travaglia: O Aspecto Verbal
no Português - A Categoria e Sua Expressão
por Shiro Iyanaga

Subsídios para o Estudo da Presença de
Wenceslau de Moraes em Tokushima:
A contribuição de Y. Nakano
por Kiyokatsu Tadokoro

Comunicações

Anais XVII (1983)

Artigos

Alceu Amoroso Lima-"Arauto da esperança e da liberdade"
por Vendelino Lorscheiter

O IIº Centenário do Marquês de Pombal
por Jorge Dias

Contribuição Portuguesa para
o Estudo da Língua Japonesa
por Manuela Álvares

O Ensino do Português e a Comunicação
com os Brasileiros
por Noêmia Hinata

Hearn e Moraes
sobre Yuko Hatakeyama
por Akira Fukazawa

Comunicações

Homenagem ao Prof. Dr. Fernando de Mello Moser

Anais XVIII (1984)

Artigos

- Sílvio Duncan e a Poesia Quixote
 por Regina Zilberman
- O Núcleo de Wenceslau de Moraes
 da Biblioteca Nacional de Lisboa
 por Jorge Dias
- Histórias em Quadrinhos
 - Um Aliado da Literatura
 por Sonia M. Bibe-Luyten
- Relação Comparativa entre Ulyses de James Joyce
 e Tereza Batista de Jorge Amado
 por Joseph M. Luyten
- A Inquisição: Gil Vicente
 a propósito do Conceito de Conversão "à força"
 por Masashi Hayashida
- Formas de Tratamento no Português de
 Portugal em Breve Comparação
 com o Português do Brasil
 por Manuela Álvares
- O Programa do Presidente Eleito Tancredo
 Neves, e o Pensamento da Igreja Católica
 por Vendelino Lorscheiter

Comunicações

- O Mapa do Japão de Inácio Moreira
 por J.M. Álvares
- Publicações
 In Memoriam: breve requiem por dois mestres
 da cultura luso-brasileira recém-desaparecidos
 por Jorge Dias

Anais XIX (1985)

Artigos

- Um Poeta, uma Cidade, uma Literatura
por Maria José de Lancastre
- Fernando Pessoa entre Dois Mundos
por Maria Manuela S. Álvares
- Anti-Belicismo perante a I Guerra
Mundial: as teses de Aquilino
Ribeiro e Fernando Pessoa
por Jorge Dias
- O Índio como Personagem nas Histórias
em Quadrinhos
por Sonia M. Bibe-Luyten
- A Literatura de Cordel como Elemento
Alfabetizador da População do
Nordeste Brasileiro
ou o Cordel na Escola
por Joseph M. Luyten
- A Ficção de Moacyr Scliar
por Regina Zilberman
- A Igreja e a Nova República
por Vendelino Lorscheiter

Comunicações

- Comunicação sobre "A Inquisição em Portugal"
por Masashi Hayashida
- Publicações
Novos Membros da AJELB
Falecimento

Anais XX (1986)

Artigos

- O Simbolismo Rio-Grandense
e a Literatura Portuguesa
por Regina Zilberman
- O Problema Indígena no Brasil
visto pela Literatura de Cordel
por Joseph M. Luyten
- Macau em meados do Século XIX: o relato
do explorador austríaco
Karl Ritter von Scherzer
por Jorge Dias
- "Apenas uma Laranja" e a Crítica Japonesa
por Shiro Iyanaga
- Igreja e Constituinte
por Vendelino Lorscheiter

Comunicações

- Sobre o Dicionário Português-Japonês
Romanizado de Shigueru Sakane
e Noêmia Hinata
por Noêmia Hinata
- Encontro de Professores e Leitores
de Português em Universidade
do Oriente
(Jorge Dias)

Anais XXI (1987)

Artigos

- Gilberto Melo Freyre - In Memoriam
por Vendelino Lorscheiter
- Uma Contribuição Alemã para
os Estudos Portugueses:
WENCESLAU DE MORAES UND JAPAN
por Helmut Feldmann
- Os Verbos Existenciais
do Português e do Japonês
por Jorge Dias
- Choque de Cultura
- Tragédia ou Epopéia -
por Noêmia Hinata
- por Megumi Yagyu

Comunicações

- Programa de Intercâmbio Internacional do
IBASE : Projeto Japão
por Átila P. Roque
- Novos Membros da AJELB

Anais XXII (1988)

Artigos

- O Português, Hoje
 por José Victor Adragão
- Uma Celebração do Japão da Era de
 Meiji: "O Japão por Dentro",
 de Ladislau Batalha
 por Jorge Dias
- Camões na Literatura Popular
 em Verso Brasileiro
 por Joseph M. Luyten
- A Igreja e a Escravidão
 do Negro no Brasil
 por Vendelino Lorscheiter
- In Memoriam: Fernando Namora -
 Mestre de um Tradutor Japonês
 por Shiro Iyanaga
- Comunicação Não-Verbal:
 Um Estudo Comparativo
 Brasil-Japão (I)
 por Noêmia Hinata
- O Japonês e o Aprendizado
 da Língua Portuguesa
 -sob o ponto de vista
 sócio-cultural-
 por Megumi Yagyu

Comunicação

Novos Membros da AJELB

Anais XXIII (1989)

Artigos

- De Nagasaki a Tokushima:
Notas sobre duas efemérides
da existência de Venceslau
de Moraes
por Jorge Dias
- Igreja e Política no Brasil,
com referência especial às
eleições presidenciais de 1989
por Vendelino Lorscheiter
- Padrões Oracionais em Português
por Shiro Iyanaga
- KASATO MARU: Porta do Haicai
no Brasil
por Delores Pires
- Teatro e Ensino da Língua Portuguesa
para Estrangeiros: Relato de
uma experiência
por Maria Lígia Ferreira Verdi
- Comunicação Não-Verbal: um estudo
comparativo Brasil-Japão (II)
por Noêmia Hinata
- Breves Considerações sobre
o PAPIAMENTU
por Joseph M. Luyten
- A Crítica de Machado de Assis
a "O Primo Basílio" e
a "O Crime do Padre Amaro"
por Masaaki Hirai
- A Comunicação Verbal e o Cérebro
por Megumi Yagyu

Comunicação

Novos Membros da AJELB